

日本教育社会学会

The Japan Society of Educational Sociology

第 77 回大会プログラム

2025

2025年11月8日(土)・9日(日)

主催：一般社団法人 日本教育社会学会

目 次

I インフォメーション

ご案内	05頁
大会会場へのアクセス・構内案内図	09頁
会場配置図	11頁

II 大会日程

大会日程	15頁
------------	-----

III プ ロ グ ラ ム

前日：11月7日（金）

若手研究者交流会（16:00～18:30）	17頁
-----------------------------	-----

第1日目：11月8日（土）

研究発表Ⅰ（9:30～11:30）

【Ⅰ-1】教育問題・社会問題（1）	18頁
【Ⅰ-2】子ども・青少年と文化	19頁
【Ⅰ-3】教師（1）	20頁
【Ⅰ-4】社会階層と教育（1）	21頁
【Ⅰ-5】進路と教育（1）	22頁
【Ⅰ-6】地域社会と教育	23頁
【Ⅰ-7】子どもと通信教育	24頁
【Ⅰ-8】高等教育：学生とキャリア（1）	25頁
【Ⅰ-9】能力論	26頁
【Ⅰ-10】教育方法・カリキュラム	27頁
【Ⅰ-11】英語特設部会（English Session）	28頁
ポスター発表部会（Poster Session）（13:15～14:05）	29頁

研究発表Ⅱ（14:20～16:20）

【Ⅱ-1】教育問題・社会問題（2）	30頁
【Ⅱ-2】家族と教育	31頁
【Ⅱ-3】教師（2）	32頁
【Ⅱ-4】大学での学びと生涯教育	33頁
【Ⅱ-5】進路と教育（2）	34頁
【Ⅱ-6】学力（1）	35頁
【Ⅱ-7】ジェンダーと教育（1）	36頁

【Ⅱ-8】高等教育：学生とキャリア（2）	37頁
【Ⅱ-9】社会的公正と教育（1）	38頁
【Ⅱ-10】異文化間教育（1）	39頁
【Ⅱ-11】初等・中等教育	40頁

研究発表Ⅲ（16:35～18:35）

【Ⅲ-1】教育問題・社会問題（3）	41頁
【Ⅲ-2】特別支援教育（1）	42頁
【Ⅲ-3】教育政策・制度	43頁
【Ⅲ-4】社会階層と教育（2）	44頁
【Ⅲ-5】進路と教育（3）	45頁
【Ⅲ-6】学力（2）	46頁
【Ⅲ-7】ジェンダーと教育（2）	47頁
【Ⅲ-8】高等教育：学生とキャリア（3）	48頁
【Ⅲ-9】社会的公正と教育（2）	49頁
【Ⅲ-10】異文化間教育（2）	50頁
【Ⅲ-11】テーマ部会（1）	51頁

第2日目：11月9日（日）

研究発表Ⅳ（9:30～12:00）

【Ⅳ-1】グローバリゼーションと教育	52頁
【Ⅳ-2】特別支援教育（2）	53頁
【Ⅳ-3】教師（3）	54頁
【Ⅳ-4】社会階層と教育（3）	55頁
【Ⅳ-5】専門教育と理系人材	56頁
【Ⅳ-6】計量教育社会学	57頁
【Ⅳ-7】ジェンダーと教育（3）	58頁
【Ⅳ-8】高等教育：制度・政策	59頁
【Ⅳ-9】教育の歴史社会学	60頁
【Ⅳ-10】テーマ部会（2）	61頁

課題研究（13:00～16:00）

I 感情の教育社会学——文学を素材に歴史と現代をつなぐ	62頁
II 公教育で保障すべき教育機会をどう考えるか——「普通教育」とは何かを問いながら	63頁

教員養成政策に関する意見交換会（16:00～17:00）	64頁
------------------------------	-----

I インフォメーション

ご 案 内

1.会場

大阪大学 吹田キャンパス 人間科学部

所在地 〒565-0871 吹田市山田丘1-2

<最寄り駅>

大阪モノレール彩都線「阪大病院前」下車 徒歩約10分

阪急バス・近鉄バス「阪大医学部前」もしくは「阪大本部前」下車 徒歩約5分

アクセスの詳細は9～10 頁の地図を参照してください。

2.大会情報・連絡先

最新の情報(詳細な情報や修正事項を含む)は、大会ウェブサイト(<https://jses-web.jp/conference/77>)にて、随時更新しています。また、今大会は大会運営業務をコームラ社に委託しています。お問い合わせは、下記の運営事務局にお願いします。

<問い合わせ先>

日本教育社会学会第77回大会運営事務局 E-mail: jses77@kohmura.co.jp

(お問い合わせ等は、メールにてお願いいたします)

3.参加資格

大会に参加するためには、学会ウェブサイト内の大会ウェブサイト(<https://jses-web.jp/conference/77>)から事前に申し込み、大会参加費をお支払いいただく必要があります。非会員の方もウェブサイトから臨時会員としての申し込みが可能です。大会参加申し込み期間は、6月2日(月)から10月20日(月)16時までです。期限後の大会参加申し込みも可能ですが、その場合には期限後として設定された参加費となりますので、お気をつけください。

<大会参加費>

		一般	学生	税区分
期限内 申し込み	会員	5,000 円	3,000 円	不課税
	臨時	5,500 円	3,500 円	10%税込み
期限後 申し込み	会員	7,000 円	5,000 円	不課税
	臨時	7,500 円	5,500 円	10%税込み

- (1) 大会参加費等の支払いは、クレジットカードによる「オンライン決済」もしくは「銀行振込」のいずれかとなります。10月20日(月)の期限内に申し込みと決済の手続きをお済ませください。ただし、支払いは極力「オンライン決済」をご利用ください。なお、期限後の支払いについては「オンライン決済」のみ可能です。当日会場でもオンライン決済によるお支払いのみ受け付け可能です。学会大会当日の大会会場での現金による参加費の受付はできません。
- (2) 申し込み時に、会員番号(ID)の入力が必要となります。学会からの郵送物の宛名の下に掲載されている番号となります。会員番号(ID)/パスワードがご不明の際は、参加申込システム等の「ログインできない方はこちら」より再取得が可能です。対応にお時間をいただくことがございますので余裕をもってご確認願います。
- (3) 一般/学生の会員種別について、学会ウェブサイトの「会員情報管理システム」において、最新の情報に更新してください。
- (4) 「臨時(学生)」には、学部学生が含まれます。
- (5) 入会申し込み後、入会手続き完了前は臨時会員の扱いになるため、大会参加の申し込みは正会員として承認された後に行ってください。
- (6) 大会参加費について、会員(学生)は会員(一般)よりも2,000円減額されています。この減額分には、学会による大会参加負担軽減措置としての1,000円分が含まれています。
- (7) 大会参加の申し込み・参加費支払いが完了すると、指定されたメールアドレスに受領メールが届きます。メールが届かない場合は手続きが完了していない可能性がありますので、メールの受信の有無を必ずご確認ください。なお、銀行振込による参加費の支払いの場合は、入金確認に2,3営業日程度を要します。

- (8) 領収書は「大会参加申込システム」上から PDF ファイルで取得できます。大会参加費について、会員は不課税、臨時会員は税込です。
- (9) 支払い後の返金は、理由に関わらずできません。

4. 発表時間

【一般部会、テーマ部会、英語特設部会】

発表時間は、発表者の人数によって下記ようになります。

1名……発表 20 分+質疑応答 5 分

2名以上……発表 40 分+質疑応答 10 分

発表終了 5 分前に 1 鈴、終了時刻に 2 鈴、質疑応答終了時刻に 3 鈴の合図をします。発表時間は厳守願います。

【ポスター発表部会】

- (1) ポスター発表部会の発表者は、11月8日(土) 11時30分～11時45分に本館1階インターナショナル・カフェで、指定された掲示板(ボード)にポスターを掲示してください。
- (2) ポスター発表部会の会場である本館1階インターナショナル・カフェは、12時45分～13時15分はコーヒードリンクの時間として使用しますので、ポスター発表やその準備をすることはできません。あらかじめ11時45分までにご準備ください。
- (3) ポスター発表の時間は13時15分～14時05分の50分間で、この間を責任在席時間とします。責任在席時間中は在席し、研究内容の説明と質疑にに応じてください。
- (4) 終了時刻の14時05分になりましたら速やかに発表を終了し、掲示したポスターを片付けてください。
- (5) 発表者が欠席した場合や責任在席時間にはいない場合は「発表取消」となります。

5. 発表要旨集録

発表要旨集録は、参加費をお支払い済の方のみ、11月4日以降、SOLTIから各研究発表の発表要旨の閲覧とダウンロードができます(当日の冊子、USBメモリでの配布はありません)。「16. 本大会における Wi-Fi 環境について」(7頁)に示した Wi-Fi 環境にて、大会会場で発表要旨の閲覧とダウンロードも可能ですが、発表要旨集録については事前にダウンロードして大会会場にいらして下さるようお願いいたします。

6. 発表当日に使用する資料について

- (1) 前回大会と同様に、発表者が発表要旨とは別に大会当日に使用する資料を任意で事前にアップロードできます(PDF 形式に限る)。課題研究を含めすべての部会が対象です。
- (2) システムの都合上、ファイルは PDF 形式のみ、個数は 1 発表について 1 個まで、ファイル容量の上限は 5MB とします。ファイル名は「〇〇〇〇発表資料.pdf」(〇〇〇〇は発表(代表)者の氏名(漢字を基本))としてください。
- (3) 資料ファイルのアップロードは、発表申込完了時に送信されるメールに記載された URL にしたがって SOLTI から行ってください。
- (4) 資料ファイルは、発表する部会がいずれであっても、11月3日(月・祝)から7日(金)までを目途に早めにアップロードしてください。
- (5) 大会参加費を納付した参加者は、大会期間中にこの資料を SOLTI からダウンロードできます。

7. プログラム・発表要旨集録の記載内容について

発表者の氏名・所属・発表題目(副題を含む)は、発表申込において SOLTI に提出された内容のまま記載しています。

8. 欠席について

発表者が欠席するときは、11月7日までに大会運営事務局宛(jses77@kohmura.co.jp)に必ずお知らせください。発表者が欠席の場合、発表時間の繰り上げは行いません。

「大会案内」に記載のとおり、発表を取り消した場合は、原則として大会時と終了後に氏名を公表します。

9. 発表における機器の準備・使用について

- (1) 本大会では、発表で利用するプロジェクターのみ大会校で用意します。発表で利用するパソコンについては発表者をご持参ください。
- (2) 接続ケーブルとしては HDMI 対応となっています。それ以外の接続を希望される場合は、専用のコネクタをお持ちください。

(3) 大会校での複写は受け付けておりません。発表資料を紙で配布する場合は、事前に十分な部数をご用意ください。

10. カラー資料作成の手引き～色覚バリアフリーの実現に向けて～

本学会では、学会発表や学会活動のさまざまな場面において「色覚バリアフリー」の実現をめざしています。色覚バリアフリーとは、色彩の識別が困難な人たちが一定の割合でいらっしゃるという科学的見地にもとづき、大会発表資料等における色の使い方の配慮等、適切な工夫が必要であるという考え方です。誰にとってもわかりやすい資料提示をめざし、特にカラー資料の提示の際には、次の点にご配慮くださいますよう、お願い申し上げます。

- ①赤と緑の識別が困難な場合が多いので、配慮する。
- ②レーザーポインターは、緑のポインターが望ましい。
- ③明度の差を利用し、コントラストのはっきりした色の塗り分けを工夫する。
- ④輪郭線や境界線で、塗り分けの境を強調する。
- ⑤ひとつの図版に使う色数は、なるべく少なくする。
- ⑥対象箇所を各色だけで示さず、場所や形で指定する。(例:この四角い赤のマークは…)

11. 受付

場所:人間科学部本館1階 正面玄関ロビー

時間:大会第1日目(11月8日)8時45分～18時30分

大会第2日目(11月9日)9時00分～14時00分

今大会では、10月20日16時までに参加申込と支払い手続きをされた方の名札が、受付に用意されています。そこからご自身の名札を受け取り、会場へお入りください。

12. クローク

場所:人間科学部本館1階 12講義室

時間:大会第1日目(11月8日)8時45分～19時00分

大会第2日目(11月9日)9時00分～16時30分

※貴重品のお預かりはできません。ご自身で携帯してください。

13. 事業報告会

第1日目の事業報告会では、おもに事務局から学会の事業について報告するとともに、会員の皆様からのご意見を募ります。これに続く学会奨励賞授賞式は同じ会場で行います。

14. 昼食

昼食については、会場付近に飲食・商業施設がほとんどありませんので(会場近くの学内の店舗・食堂なども土日はすべて休業)、あらかじめご購入の上、会場まで持参くださるようお願いいたします。なお、大会校では8日と9日にお弁当の手配をいたしますので、大会参加申込時にオプションとしてお申し込みください。

昼食を申し込まれた方は、両日とも11時以降に、受付にてお受け取り下さい。

15. 会員控室

会員控室(本館1階インターナショナル・カフェ、本館2階・3階のリフレッシュルーム)には、お茶・お菓子等をご用意しております。ご利用ください。

16. 本大会におけるWi-Fi環境について

- (1) 大会会場となっている建物には安定的に利用できるWi-Fi環境が整っておりません。そのため、会員控え室等に臨時のルーターを設置する予定です。一度に接続可能な数には限りがありますこと、ご容赦ください。なお、Wi-Fi環境を利用するためのID・パスワードは会場にてお伝えする予定です。
- (2) 課題研究の教室では、eduroamが使用可能です。
- (3) 以上のことから、発表要旨などは、できるだけホテルなどで事前にダウンロードしていただくか、モバイルWi-Fi等をご用意いただけますよう、お願いいたします。

17. 懇親会・コーヒープレイクについて

今大会では、残念ながら、懇親会は開催しないことといたしました。代わりに、会員の交流の時間として1日目の午後にコーヒープレイクの時間を設定することとしました。

18. 合理的配慮について

本会場は基本的に車椅子使用に必要なバリアフリー対応をしております。その他に、大会に参加するうえで配慮・特別なサポートが必要な場合は、事前に運営事務局 (jses77@kohmura.co.jp) までご連絡ください。

参考: 大阪大学吹田キャンパス バリアフリーマップ

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/accessibilitymap/>

このサイトで「吹田キャンパス」のPDFを開いてください。

19. 大会期間中の一時保育料補助について

大会に参加するため、託児サービス(有料で託児を行う事業者)を利用された会員に対して、費用の一部を補助します。補助金額は大会出席1日あたり5,000円(子1人につき)・2人までを上限とし、補助日数は会期中2日間まで補助します。希望される方は、大会参加申込時にオプションで「一時保育料補助」の申し込みをしてください。託児サービスの選定と予約はご自身でお願いします。補助金の支払い手続きは、申込者の方に別途お伝えします。

20. 宿泊のご案内について

今大会では、宿泊についてのご案内はいたしません。各自でご予約ください。今年は2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)が10月13日まで大阪府内で開催されており、その影響で11月も宿泊施設が混雑する可能性がありますので、なるべく早めのご予約をお願いします。

21. トラベルグラントについて

今大会では、本学会の試行的取り組みとしてトラベルグラントが導入されています。対象となる方は、学会ウェブサイトに記載されている案内・指示に従ってください(申し込み期限は6月30日に終了しています)。

22. 最終日の「教員養成政策に関する意見交換会」について

会員有志の提案をもとに、理事会で承認された企画として、教職課程における「教育社会学のプレゼンスを高める」ための具体的な方策について議論するものです。関心のある会員の方は、ぜひご参加ください。教職課程などを担当していない方も歓迎します。

23. 本学会大会の取材について(報道機関の方へ)

報道機関の方が、取材のための本大会に参加される場合には、参加費は無料とし、受付にて「取材許可証」を発行します。取材をご希望の場合は、事前に大会運営事務局(jses77@kohmura.co.jp)にご連絡ください。

大会会場へのアクセス・構内案内図

会場 〒565-0871 吹田市山田丘1-2 大阪大学人間科学部（吹田キャンパス）

<吹田キャンパスの位置>



大阪大学のキャンパスは、豊中、箕面、吹田にわかれています。人間科学部は吹田キャンパス内にあります。

<最寄り駅>

大阪モノレール彩都線「阪大病院前」下車 徒歩約10分

「大阪空港」または「千里中央」より「万博記念公園」で彩都線に乗り換え

大阪モノレール <https://www.osaka-monorail.co.jp/station/>

阪急バス「阪大医学部前」下車 徒歩約5分

「千里中央」より「阪大本部前」行きまたは「茨木美穂ヶ丘」行き

阪急バス <https://www.hankyubus.co.jp/>

近鉄バス「阪大医学部前」下車 徒歩約5分

「JR茨木駅」または「阪急茨木市駅」より「阪大本部前」行き

近鉄バス <https://www.kintetsu-bus.co.jp/>

<人間科学部と感染症総合教育研究拠点の位置>



人間科学部本館の玄関は南側（正門側）にあります。

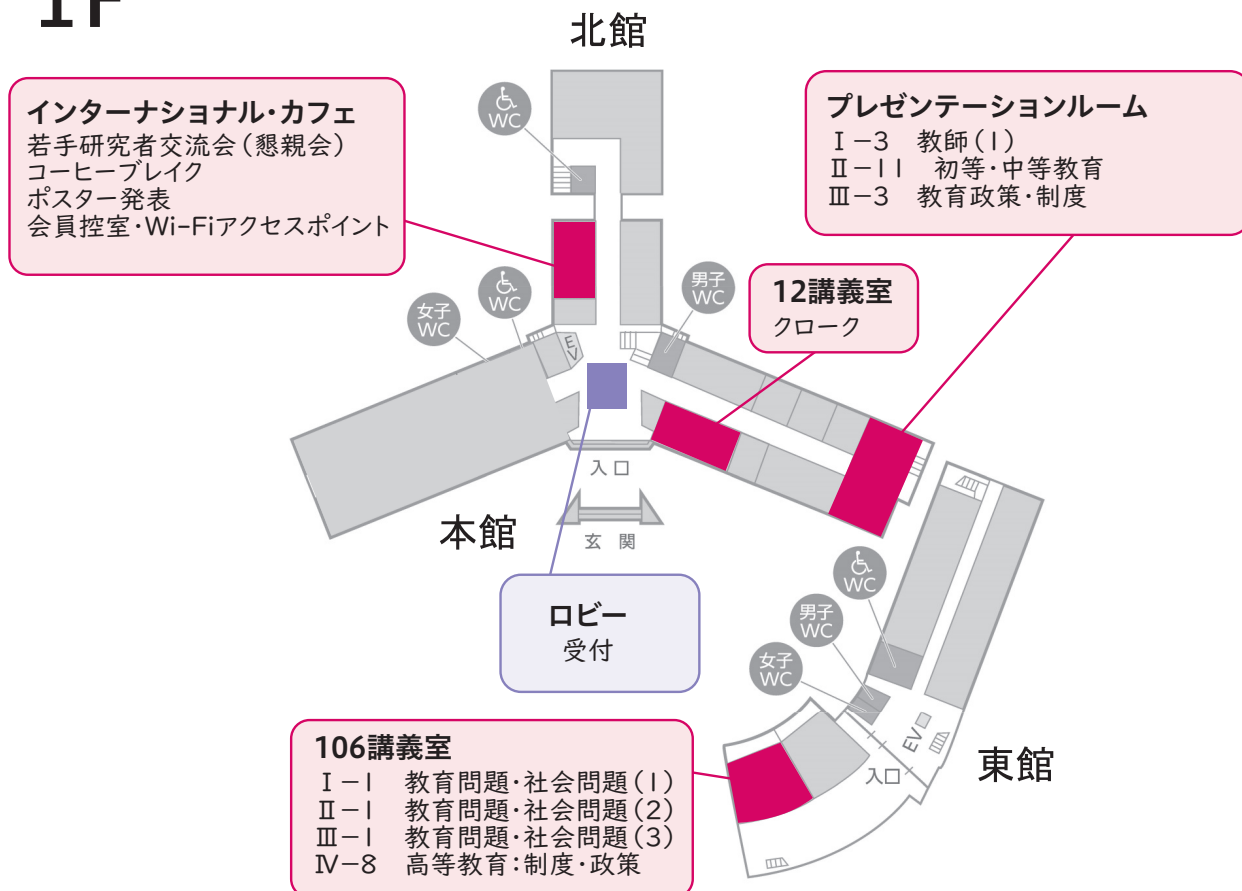
モノレール阪大病院前駅からは、出口を出て左折し下り坂の歩道をすすみ、T 字につきあたったら、右折してください。200m ほど進むと、左手に人間科学部の建物が見えますが、ちょうど裏手となりますので、そのままさらに60m ほど直進した先を左折して玄関口の方におまわりください。

モノレール「阪大病院前」駅から徒歩 10 分

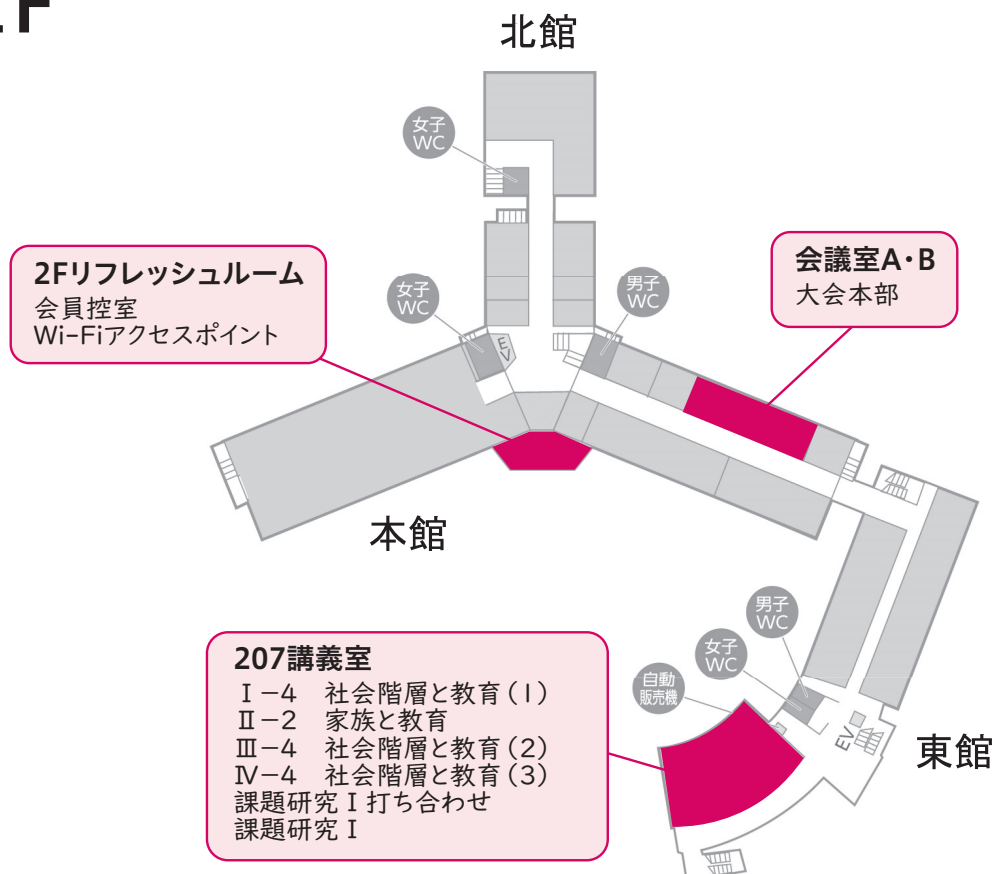
バス停「阪大医学部前」もしくは「阪大本部前」から徒歩5分

会場配置図

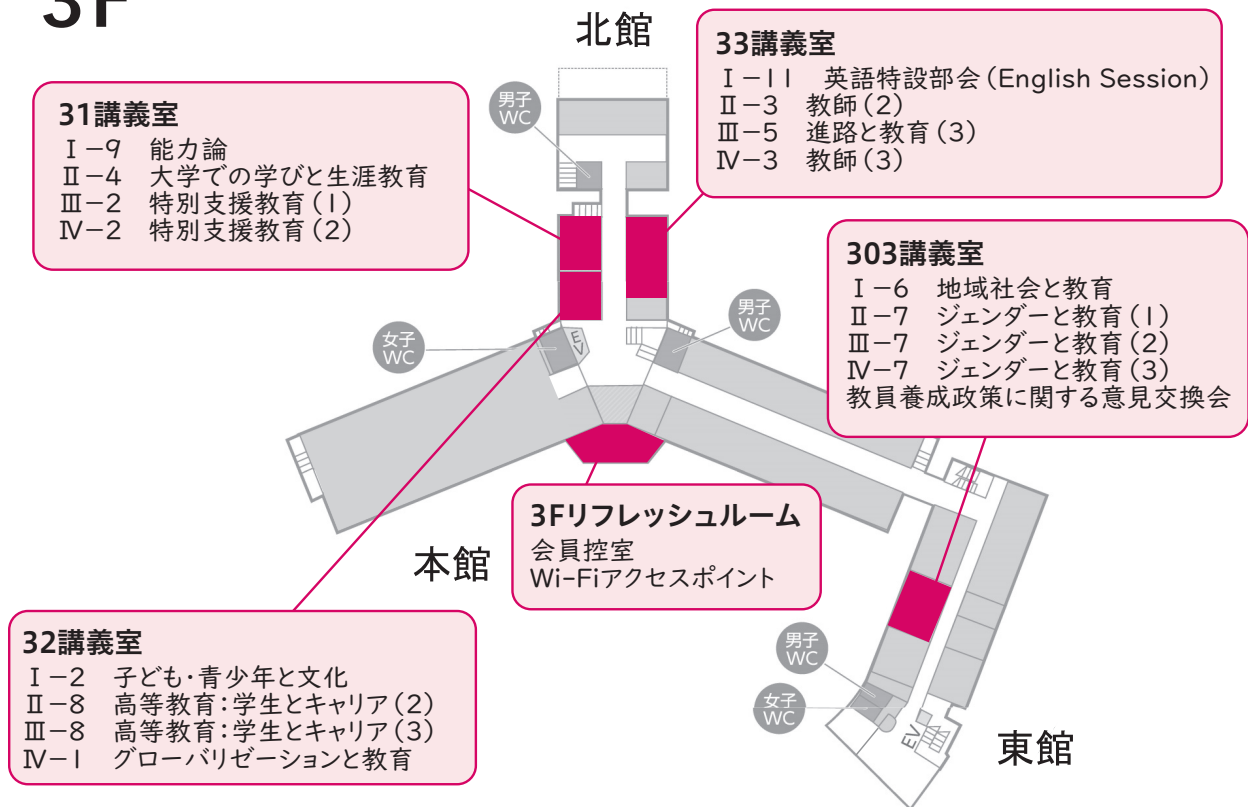
1F



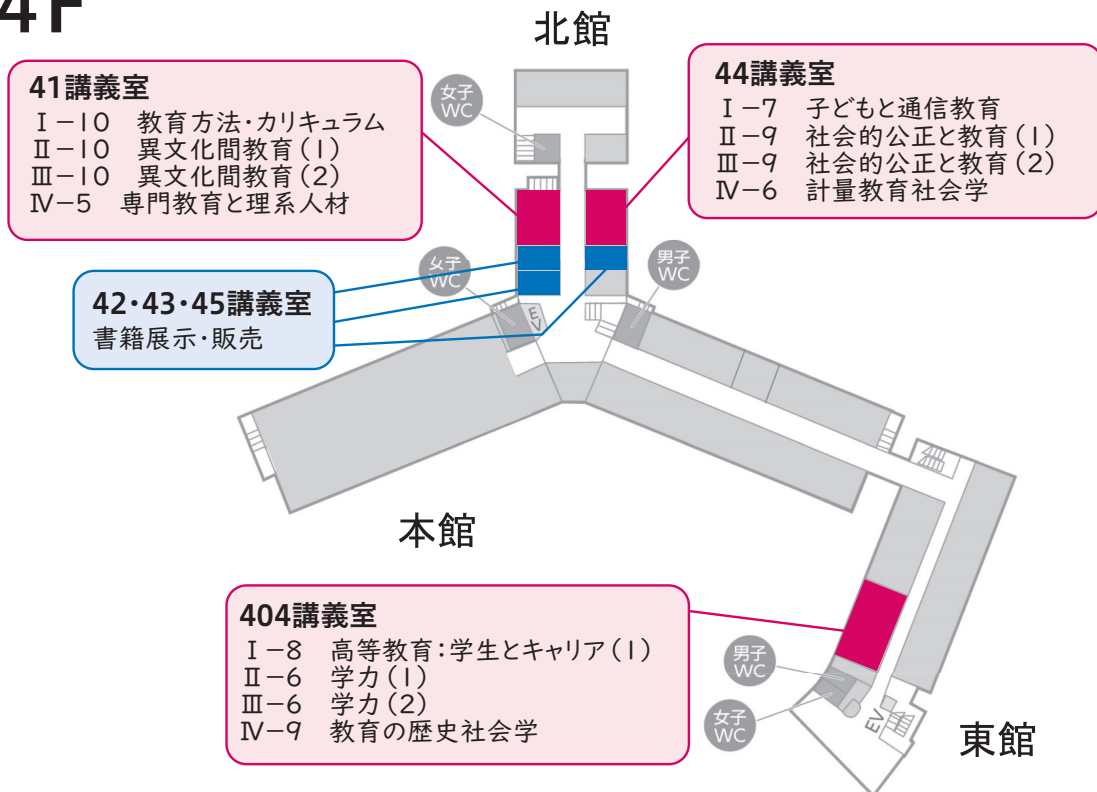
2F



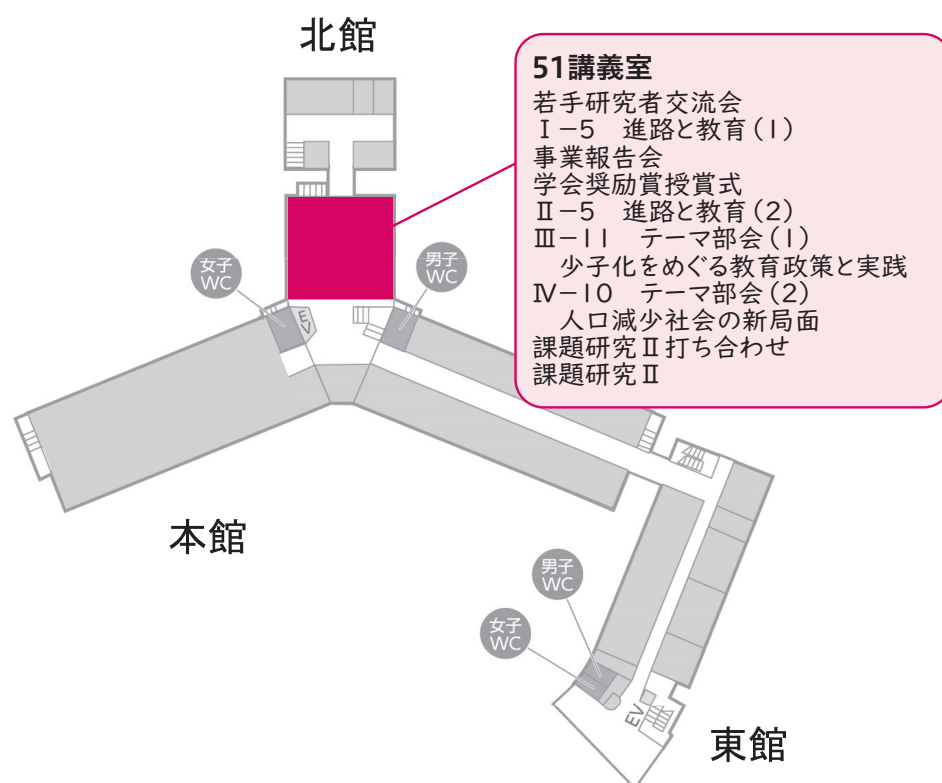
3F



4F



5F



Ⅱ 大会日程・各種会合

大会日程

前日：11月7日（金）		
15:00～17:00	新・理事会	大阪大学感染症総合教育研究拠点 1階 101大ホール
17:00～18:30	新・代議員総会	大阪大学感染症総合教育研究拠点 1階 101大ホール
16:00～18:30	若手研究者交流会	交流会：人間科学部本館5階51教室 懇親会： 人間科学部本館1階 インターナショナル・カフェ
第1日目：11月8日（土）		
8:45～	受付	人間科学部本館1階 正面玄関ロビー
9:30～11:30	研究発表Ⅰ	
11:45～12:25	事業報告会	人間科学部本館5階 51講義室
12:25～12:45	学会奨励賞授賞式	人間科学部本館5階 51講義室
12:45～13:15	コーヒープレイク	人間科学部本館1階インターナショナル・カフェ
13:15～14:05	ポスター発表部会	人間科学部本館1階インターナショナル・カフェ
14:20～16:20	研究発表Ⅱ	
16:35～18:35	研究発表Ⅲ	
第2日目：11月9日（日）		
9:00～	受付	人間科学部本館1階 正面玄関ロビー
9:30～12:00	研究発表Ⅳ	
12:05～13:00	課題研究打ち合わせ	
13:00～16:00	課題研究Ⅰ	人間科学部東館2階207講義室
	課題研究Ⅱ	人間科学部本館5階51講義室
16:00～17:00	教員養成政策に関する 意見交換会	人間科学部東館3階303講義室

Ⅲ プログラム

若手研究者交流会

11月7日(金) 16:00-18:30

日本教育社会学会では、全国各地の大学・大学院等において教育社会学研究の研鑽を積んでいる若手研究者を対象に、下記の要領で若手研究者交流会を開催することにいたしました。本交流会は、気軽に若手研究者同士で研究計画や研究成果、キャリアプラン等を検討・相談できる場を提供し、参加者相互の新たなネットワークの構築を図ることを目的としています。

特に今年度の学会大会（於大阪大学）では、学会・大会校主催での懇親会が開催されないことを踏まえ、若手・初期キャリアの方々に対してだけでも懇親の場を提供しようと教育部が思い立ち、交流会の直後に懇親会も開催する予定です。多数のご参加をお待ちしております。

- (1) 主 催 日本教育社会学会
- (2) 日 時 2025年11月7日(金) 16:00～18:00
- (3) 場 所 大阪大学 吹田キャンパス(〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2)
交流会：人間科学研究科 / 人間科学部 本館5階・51教室
懇親会：本館1階・インターナショナルカフェ
- (4) 参加対象 学部生、大学院生、初期キャリアの研究者で教育社会学に関心のある方（非学会員も可）
- (5) 懇親会参加費 飲食代2,000円（交流会のみ参加の方は不要）
- (6) 実施形態 対面
- (7) タイムライン
16:00～17:00 交流会（あらかじめ割り振られたグループ内での参加者の自己紹介・研究関心・悩み等の共有：1人5分程度。）
17:00～18:00 懇親会（初期割り振りグループを超えて自由な交流）
- (8) 参加メ切 10月10日(金)
- (9) 参加者のみなさまへ

■参加される方は全員 **10月10日(金)** までに下記の Google フォームにご回答をお願いいたします。

<https://forms.gle/3ldj2pyeFWvGgAzHA>

- ・自己紹介・研究関心・悩み等：フォームに書き込まれた内容は参加者で共有しますので、それを前提に記載をしてください。
- ・本大会での発表予定者は発表資料を自己紹介代わりの資料として代用可（フォームの「自己紹介・研究関心・悩み」の記入は省略可）。
- ・その他自己紹介代わりの資料やレジュメ、論文の抜き刷り等も配布可能
※学会大会での発表資料やその他資料・レジュメ・論文等を若手の会で配布する場合は、紙媒体・電子媒体を問わず参加者が各自用意してください。
※できる限り電子媒体での配布（ファイルのアップロード先 URL の通知等）をお願いいたします。
- ・Google フォームにアップロードされた自己紹介・研究関心・悩み等の記述資料については紙媒体での配布はいたしませんので、各自 PC やタブレット等を持ち込みの上、クラウドからダウンロードしてください（URL は後日連絡いたします）。会場の Wi-Fi は eduroam 等でご利用ください。

■懇親会参加希望者は、アンケート回答後の画面にある URL から懇親会入金システム Peatix へ移動して懇親会費をお支払いください。

【問い合わせ先】日本教育社会学会教育部
jses.yseminor.20232024@gmail.com

I - I 部会

教育問題・社会問題（I）

11月8日（土） 9:30-11:30 106 講義室

司会

石飛和彦（天理大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30-9:55 | 1. 教育をめぐる「正常／異常」言説の制度化過程（2）
○池田隆英（岡山県立大学） |
| 9:55-10:20 | 2. 現代の非行少年と教師の関係性に関する考察
ー少年院在院者へのインタビューから
○作田誠一郎（佛教大学） |
| 10:20-11:10 | 3. 「いじめ自殺」事案をめぐる争いの新展開
ーポスト大津市事件における当事者の活動に着目してー
○間山広朗（神奈川大学）
○稲葉浩一（和光大学）
○今井聖（琉球大学）
久保田真功（関西学院大学） |
| 11:10-11:30 | 総括討論 |

I－2 部会

子ども・青少年と文化

11月8日（土） 9:30－11:30 32 講義室

司会

西島央（青山学院大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30－9:55 | 1. 高校生の国家意識の現状——アンケート調査に基づく学校間比較
○甄卓榮（筑波大学大学院） |
| 9:55－10:20 | 2. 若者の自己への意識構造についての一考察
ー大学生における「読書活動経験」に関する実態調査の分析結果よりー
○腰越滋（東京学芸大学） |
| 10:20－10:45 | 3. 社会共創型の創作体験が子供の人間形成に与える影響
～音楽による国際教育プロジェクト『Shion』における実証的検討～
○宮坂修平（法政大学） |
| 10:45－11:10 | 4. 不登校の子どもと芸術教育
：関東地方の不登校支援施設・団体のタイプごとの芸術体験の現状と展望
○中村仁美（和光大学） |
| 11:10－11:30 | 総括討論 |

I－3 部会

教師（I）

11月8日（土） 9:30－11:30 プレゼンテーションルーム

司会

越智康詞（信州大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30－9:55 | 1. なぜ保護者トラブルは起きないのか
－ 小学校教師の保護者対応ストラテジー－
○八木悠太（さいたま市立春野小学校） |
| 9:55－10:20 | 2. 工業高校教員の勤務状況とその改善に関する比較分析
——学校組織の視点から
○野村駿（秋田大学）
菊地原守（鹿屋体育大学）
小田郁予（都留文科大学）
園田薫（慶應義塾大学・非会員） |
| 10:20－11:10 | 3. 働き方「改善」を教師はなぜ受け入れないのか？
－ 小学校の「教科担任制」の導入を事例に－
○片山悠樹（愛知教育大学）
○寺町晋哉（宮崎公立大学）
○粕谷圭佑（奈良教育大学） |
| 11:10－11:30 | 総括討論 |

I - 4 部会

社会階層と教育 (I)

11月8日(土) 9:30-11:30 207 講義室

司会

川口俊明(福岡教育大学)

- | | |
|-------------|---|
| 9:30-9:55 | 1. 中国の教育拡大と階層・再取得学歴：人生初期と成人後の機会格差
○陳炯楷(早稲田大学大学院)
鴨下響(早稲田大学大学院)
川又亮(早稲田大学大学院) |
| 9:55-10:20 | 2. 教育格差に関する異なるフレーミングが教育政策への世論に与える影響
ーオンライン・サーベイ実験による分析ー
○森坂太一(東北大学大学院/日本学術振興会) |
| 10:20-10:45 | 3. パンデミックは学力格差を拡大させたのか
ー GIGA スクール構想の効果に着目してー
○謝伊琳(東京大学大学院) |
| 10:45-11:10 | 4. パンデミックは傷跡効果をもたらすか？
：高卒後進路の階層差のトレンド分析
○豊永耕平(近畿大学) |
| 11:10-11:30 | 総括討論 |

I－5 部会

進路と教育（I）

11月8日（土） 9:30－11:30 51 講義室

司会

松田洋介（大東文化大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30－9:55 | 1. 外国ルーツの子どもたちの大学進学と進路設計
○伊藤未帆（神田外語大学） |
| 9:55－10:20 | 2. 私立大学附属校とは何か―内部進学率からみた分化と機能の分析
○沈雨香（早稲田大学）
武藤浩子（早稲田大学）
山本桃子（国立近代美術館・非会員）
木村康彦（千葉大学・非会員）
藤本啓寛（筑波大学）
濱中淳子（早稲田大学）
吉田文（早稲田大学） |
| 10:20－11:10 | 3. 「エリート女子学生」の進路選択
―大学生を対象としたインタビュー調査の語りから―
○伊佐夏実（京都工芸繊維大学）
○亀口まか（龍谷大学）
○敷田佳子（龍谷大学（非常勤））
○轟蕙菁（関西国際大学）
知念渉（大阪大学）
中村瑛仁（京都教育大学） |
| 11:10－11:30 | 総括討論 |

I－6 部会

地域社会と教育

11月8日（土） 9:30－11:30 303 講義室

司会

有田伸（東京大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:30－9:55 | 1. 地方都市における自営業若者のライフコースと「地域っばさ」の再生産過程
○表谷脩平（大阪大学） |
| 9:55－10:20 | 2. 教員と保護者間の信頼関係はどうやって構築されているのか
○朱新雅（広島大学大学院） |
| 10:20－10:45 | 3. 向社会的行動の社会的背景
：パーソナルネットワークにおける経験や他者への態度に着目して
○荒牧草平（大阪大学） |
| 10:45－11:10 | 4. 韓国の地域大学振興と大学合併
－人口減少社会における退場促進と地域振興－
○塚原修一（関西国際大学）
濱名篤（関西国際大学） |
| 11:10－11:30 | 総括討論 |

I－7 部会

子どもと通信教育

11月8日(土) 9:30－11:30 44 講義室

司会

鈴木翔(東京電機大学)

- | | |
|-------------|--|
| 9:30－9:55 | 1. ユースセンターにおける教育と福祉をめぐる理念と実践の比較分析
○水野聖良(大阪大学大学院) |
| 9:55－10:20 | 2. 森田洋司の不登校研究 ―「プライベート・スペース」に着目して―
○田中佑弥(頌栄短期大学) |
| 10:20－10:45 | 3. 誰が定時制・通信制高校へ進学するのか？
：小中学生対象のパネル調査から
○中西啓喜(桃山学院大学) |
| 10:45－11:10 | 4. 高校再編と通信制高校
○濱沖敢太郎(鹿児島大学)
内田康弘(愛知学院大学) |
| 11:10－11:30 | 総括討論 |

I－8 部会

高等教育：学生とキャリア（I）

11月8日（土） 9:30－11:30 404 講義室

司会

小山治（京都産業大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:30－9:55 | 1. 学歴か学校歴か：中国における大学院進学への再加熱の検討
○陳思源（上智大学大学院） |
| 9:55－10:20 | 2. 中国における文系大学院での学びや経験と仕事のつながり
－修士課程終了者の語りを通じて－
○王雨遥（一橋大学大学院） |
| 10:20－10:45 | 3. 日本の文系大学院で修士課程を修了後に帰国した中国人留学生のキャリア
－コロナ禍における研究と就職－
○二宮祐（群馬大学） |
| 10:45－11:10 | 4. 大学院教育における指導・支援と研究生産性の関連性
－日本、カナダ、マレーシア等の比較－
○大膳司（広島大学名誉教授・上席学術研究員）
有本章（広島大学名誉教授）
村澤昌崇（広島大学）
Kim Yangson（広島大学）
Li Xin（広島大学特任学術研究員） |
| 11:10－11:30 | 総括討論 |

I - 9 部会

能力論

11月8日(土) 9:30-11:30 31 講義室

司会

牧野智和(大妻女子大学)

- | | |
|-------------|--|
| 9:30-9:55 | 1. 工業高校における「柔軟な専門性」概念にもとづく教育についての事例研究
○秋山和雄(大阪バイオメディカル専門学校)
坂本高英(大阪府立都島第二工業高校) |
| 9:55-10:20 | 2. キャリア教育・職業教育の審議過程における社会観・能力観の分析
○布川由利(和歌山大学) |
| 10:20-11:10 | 3. メリトクラシーの限界をめぐる規範理論的考察
○宮本雅也(明治大学)
○数実浩佑(龍谷大学)
○阿部崇史(拓殖大学) |
| 11:10-11:30 | 総括討論 |

I－10 部会

教育方法・カリキュラム

11月8日(土) 9:30－11:30 41 講義室

司会

岡本智周（早稲田大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30－9:55 | 1. 「吉田兼好」を巡る最新の研究と国語教科書の動向
－『徒然草』を書いたのは誰か？－
○原田健太郎（東邦大学） |
| 9:55－10:20 | 2. 高等学校の探究学習における弱い指導を支える論理
－進学校の教員へのインタビュー調査を中心に－
○小原明恵（筑波大学） |
| 10:20－11:10 | 3. 日本の学校に通う国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）履
修生の実態
－教育のグローバル化はどのような生徒に支持されているのか－
○御手洗明佳（淑徳大学）
○松本暢平（千葉大学） |
| 11:10－11:30 | 総括討論 |

I – II 部会（英語特設部会）

English Session: Youth, Diversity, and Education in a Global Context: Perspectives from Taiwan and Japan

11月8日（土） 9:30–11:30 33 講義室

司会

Takehiko Kariya (Sophia University)/ 荻谷剛彦（上智大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30–9:50 | 1. Intellectual Trends in the Sociology of Education in the UK, US, and Taiwan: A Comparative Study
○Amy Shumin Chen (National Tsing Hua University, Taiwan) |
| 9:50–10:10 | 2. Learning to Take It but Still Trying to Climb: Cases of Four Working-Class Young Men
○Chun-wen Lin (National Chiayi University, Taiwan) |
| 10:10–10:30 | 3. Work Experiences of Employed Youths from New Immigrant Families in Taiwan and Their Relationship with Educational Achievement
○Ying-Jie Jheng (National Taiwan Normal University) |
| 10:30–11:10 | 4. Global Citizenship Education in Japan: Dialogues on Sustainability in Integrated Studies at a Middle School
○Hideki Maruyama (Sophia University)/
丸山英樹（上智大学）
○Sayaka Matsukura (Sophia University)/
松倉紗野香（上智大学大学院） |
| 11:10–11:30 | Discussion |

ポスター発表部会

11月8日(土) 13:15-14:05 インターナショナル・カフェ

番号	発表者(所属)	題目
P-1	○石橋大樹(東京大学大学院)	現在の中学生の進路意識—1990年との比較から
P-2	○伊藤秀樹(東京学芸大学)	障害者をめぐる包摂規範を育む学校経験 ——若年層へのWeb調査による「接触仮説」 「ケアリング仮説」の検証
P-3	○小倉美紗希(東京大学大学院)	「大学進学率の男女差の地域差」を生み出す要因についての検討
P-4	○南部桂裕(北海道大学大学院)	家庭的背景が就学前教育・保育の選択に与える影響とその趨勢—普及の地域差に着目した計量分析—
P-5	○繆文君(同志社大学大学院) / MIAO WENJUN (Doshisha University)	Comparing High-Skilled Talent Cultivation in China and Japan: Systems, Values, and Practices
P-6	○遠藤優太(京都大学大学院)	日本のメリトクラシーの変容—教育達成過程内部の移動パターンと選抜システム—
P-7	○杉山美菜子(鎌倉女子大学大学院)	高等学校における授業でのICT活用の規定要因の検討
P-8	○藤川寛之(名古屋大学大学院)	メディア技術の変容とコミュニケーションとしての教育実践:「紙」と「デジタル」の狭間で授業を組み立てる教師の語りから
P-9	○池田美穂(千葉大学大学院)	ファーストジェネレーション学生の大学進学に関する量的推計と検討—ファーストジェネレーション学生の実態はいかに捉えるべきか
P-10	○山口真美(松山東雲女子大学)	保育者養成校における複数資格・免許取得指導の実態

Ⅱ－Ⅰ 部会

教育問題・社会問題（2）

11月8日（土） 14:20－16:20 106 講義室

司会

稲葉浩一（和光大学）

- | | |
|-------------|---|
| 14:20－14:45 | 1. WEB 小説にみる現代の能力主義
○羅大為（広島大学大学院） |
| 14:45－15:10 | 2. 「非行少年等」という問題 / 規範の創造
—〈青少年〉規範の構築における警察庁「少年警察活動要綱」（1958 年）
の影響
○中山良子（大阪公立大学工業高等専門学校） |
| 15:10－15:35 | 3. 不登校生徒の校内別室登校に対する支援とその解釈実践
○松浦加奈子（埼玉学園大学） |
| 15:35－16:00 | 4. 地方における不登校支援をめぐる制度変容と公共性の再編成
○竹中烈（愛知文教大学） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－２部会

家族と教育

11月8日（土） 14:20－16:20 207 講義室

司会

伊佐夏実（京都工芸繊維大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14:20－14:45 | 1. 放課後保育はいかに必要とされたか
——学童保育黎明期における「放課後の過ごし方」言説に着目して
○笹田照央（京都大学大学院） |
| 14:45－15:10 | 2. ひとり親家庭の子どもにとっての別居親
○西村尋（大阪大学大学院） |
| 15:10－15:35 | 3. 若者の貧困と支援ニーズ・政策ニーズに関する分析
——子ども期の衣食住困難経験に注目して——
○末富芳（日本大学） |
| 15:35－16:00 | 4. 低所得層家族の不登校経験者のその後の進路
——A 団地継続インタビュー調査の分析
○山田哲也（一橋大学）
小澤浩明（東洋大学）
栗原和樹（東京大学）
前馬優策（広島経済大学・非会員）
松田洋介（大東文化大学）
三浦芳恵（鹿児島大学） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－３部会

教師（２）

11月8日（土） 14:20－16:20 33 講義室

司会

金子真理子（東京学芸大学）

-
- | | |
|-------------|--|
| 14:20－14:45 | 1. 越境する人権・同和教育
：在外教育施設派遣教員にみる実践知の応用可能性
○芝野淳一（中京大学） |
| 14:45－15:10 | 2. 教師による自主的な研修がもたらす光と影
—小学校特別活動に関する学習会を事例に—
○長谷川祐介（大分大学）
藤村晃成（大分大学） |
| 15:10－15:35 | 3. 教師の経験・指導力等に関する分析
○有海拓巳（浜銀総合研究所） |
| 15:35－16:00 | 4. 小学校管理職キャリアの地域差：12 道県における質問紙調査から
○瀬川朗（鹿児島大学）
寺町晋哉（宮崎公立大学）
跡部千慧（東京都立大学・非会員）
木村育恵（北海道教育大学）
柴田里彩（高知大学・非会員）
高島裕美（名寄市立大学）
波多江俊介（熊本大学）
濱貴子（関西大学）
楊川（九州国際大学） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－４部会

大学での学びと生涯教育

11月8日（土） 14:20－16:20 31 講義室

司会

松繁寿和（高松大学）

- | | |
|-------------|---|
| 14:20－14:45 | 1. 学生時代の学習活動とその後の学習行動
—「学び習慣」仮説の因果的検証に向けて—
○鴨下響（早稲田大学大学院） |
| 14:45－15:10 | 2. 多様な大学教育経験が SOC（Sense of Coherence）に与える効果に関する実証的研究ービッグファイブを考慮してー
○島一則（東北大学） |
| 15:10－15:35 | 3. 「場としての図書館」の利用格差ー市民を対象とした Web 調査からー
○長谷川哲也（岐阜大学）
内田良（名古屋大学）
上地香杜（名城大学） |
| 15:35－16:00 | 4. 池田寛の「教育コミュニティ」にみる構築論
—社会教育システム論と自己教育運動論を超えて—
○堂本雅也（京都橘大学） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－５部会

進路と教育（２）

11月8日（土） 14:20－16:20 51 講義室

司会

朴澤泰男（国立教育政策研究所）

- | | |
|-------------|--|
| 14:20－14:45 | 1. 中国における中学生の教育アスピレーション形成要因
：日本の中学生を参照して
○原媛（同志社大学大学院） |
| 14:45－15:10 | 2. 大学院学習生活への適応を支える非正規教育の役割
：文系中国人留学生の進学塾経験に着目して
○朱瑩（東京大学大学院）
辺源（早稲田大学大学院・非会員） |
| 15:10－15:35 | 3. 地方県非都市部における教育と選抜
○田垣内義浩（立教大学） |
| 15:35－16:00 | 4. 国・私立中学への進学が大学の難易度に及ぼす影響
○森いづみ（中央大学） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－６部会

学力（Ⅰ）

11月8日（土） 14:20－16:20 404 講義室

司会

木村治生（ベネッセ教育総合研究所）

- | | |
|-------------|---|
| 14:20－14:45 | 1. 非認知能力と学力格差に関する実証研究
－SESによる異なるメカニズムに着目して－
○付郁（東北大学大学院） |
| 14:45－15:10 | 2. 教育委員会の蓄積データを活用した高校生の学力・学習状況の分析
－北海道の地方の小規模高校の可能性に着目した考察－
○赤間幸人（北海道教育大学）
渡辺匠（北海道教育大学・非会員）
櫻井良祐（北海道教育大学・非会員） |
| 15:10－15:35 | 3. 社会経済的背景と学齢期の学力 ー学力向上に重要な要因を探るー
○戸谷敦子（広島都市学園大学） |
| 15:35－16:00 | 4. 全国学力・学習状況調査による学校外教育と学力の関連の検討
○川口俊明（福岡教育大学） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－ 7 部会

ジェンダーと教育（Ⅰ）

11月8日（土） 14:20－16:20 303 講義室

司会

妹尾麻美（追手門学院大学）

- | | |
|-------------|---|
| 14:20－14:45 | 1. 児童虐待対応における養護教諭に対する役割認識について
ーケアを担う養護教諭とジェンダーに注目してー
○平野志乃（名古屋大学大学院） |
| 14:45－15:10 | 2. 保育者の性別とジェンダー
ー保育・幼児教育施設における実践・意識との関連ー
○黒岩薫（お茶の水女子大学大学院）
石黒万里子（東京成徳大学）
小玉亮子（お茶の水女子大学）
辻谷真知子（お茶の水女子大学・非会員）
高橋翠（学習院大学（非常勤）・非会員） |
| 15:10－15:35 | 3. 公務非正規専門職女性の職場環境と雇用条件の語りの分析
○廣森直子（大阪信愛学院大学） |
| 15:35－16:00 | 4. 専門学校卒業者の初期キャリアのジェンダー差
○眞鍋倫子（中央大学） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－８部会

高等教育：学生とキャリア（２）

11月8日（土） 14:20－16:20 32 講義室

司会

李敏（大学改革支援・学位授与機構）

- | | |
|-------------|---|
| 14:20－14:45 | 1. 通信制大学における学びを促進するのは何か？
—学生間のネットワークに着目して
○中尾友香（中央大学大学院） |
| 14:45－15:10 | 2. 通信制大学の学生居住地と所属学習センターの心理的距離とその要因
○寺田悠希（高知大学）
近藤智嗣（放送大学・非会員） |
| 15:10－15:35 | 3. 誰が留学を決定するのか？—大学内部における留学者選抜の論理
○太田知彩（筑波大学） |
| 15:35－16:00 | 4. 附属校出身者は何が違うのか—量的分析からの示唆
○武藤浩子（早稲田大学）
濱中淳子（早稲田大学）
吉田文（早稲田大学） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－９ 部会

社会的公正と教育（Ⅰ）

11月8日（土） 14:20－16:20 44 講義室

司会

若槻健（関西大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14:20－14:45 | 1. 中国の農村部における NPO 組織による教育支援に関する研究
—山東省 F 県の児童の学習意欲と将来展望の変化に着目して—
○王佳静（青山学院大学大学院） |
| 14:45－15:10 | 2. 母語支援員の労働問題
○山脇佳（中京大学大学院） |
| 15:10－15:35 | 3. 自己語りの競技としての「少年の主張」大会
○王令薇（江戸川大学） |
| 15:35－16:00 | 4. インクルーシブ教育に対する態度と児童・生徒を取り巻く「つながり」
の関係 —社会関係資本に関する質問紙調査の分析から—
○濱元伸彦（京都造形芸術大学） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－Ⅰ０ 部会

異文化間教育（Ⅰ）

11月8日（土） 14:20－16:20 41 講義室

司会

田中李歩（神田外語大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14:20－14:45 | 1. 日台国際児の語りにみる日本人学校の経験
○澁谷優子（筑波大学大学院） |
| 14:45－15:10 | 2. 日本人学校で勤務する現地採用教員の主体的実践
○高橋奈々（中京大学大学院） |
| 15:10－16:00 | 3. 教員の多文化環境での指導に関する研修ニーズ
： TALIS 2018 を用いた計量分析
○中村瑛仁（京都教育大学）
○伊藤莉央（茨木市立郡山小学校） |
| 16:00－16:20 | 総括討論 |

Ⅱ－ⅠⅠ 部会

初等・中等教育

11月8日(土) 14:20-16:20 プレゼンテーションルーム

司会

藤田武志(日本女子大学)

- | | |
|-------------|---|
| 14:20-14:45 | 1. 学びの多様化学校における「学びの保障」
ー教育実践の参与観察を通してー
○浅見浩佑(埼玉県入間市立西武中学校)
浅野信彦(文教大学) |
| 14:45-15:10 | 2. 探究学習は高校教育の現場でいかにして再文脈化されているのか
○野中康生(神戸大学大学院) |
| 15:10-16:00 | 3. 学校パネルデータでみるZ世代の中学生
: 10年間のX自治体継続調査より
○仁平典宏(東京大学)
○三輪哲(立教大学)
多喜弘文(東京大学)
○戸高南帆(東京大学大学院)
○鎌田健太郎(東京大学大学院)
○山口ゆり乃(東京大学大学院)
○上原真路(東京大学大学院) |
| 16:00-16:20 | 総括討論 |

Ⅲ－Ⅰ 部会

教育問題・社会問題（3）

11月8日（土） 16:35－18:35 106 講義室

司会

伊藤秀樹（東京学芸大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:35－17:00 | 1. 不登校支援における社会的自立の解釈
—教育委員会へのインタビュー調査から
○別府崇善（東京大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 2. 不登校経験者の通学継続戦略：「通学型」通信制高校のエスノグラフィー
○宮崎朔（中央大学大学院） |
| 17:25－18:15 | 3. 不登校支援における校内教育支援センターの役割と運営上の課題
○中野綾香（上智大学・日本学術振興会特別研究員（PD））
○酒井朗（上智大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－２部会

特別支援教育（Ⅰ）

11月8日（土） 16:35－18:35 31 講義室

司会

保坂克洋（山梨学院大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:35－17:00 | 1. 多様な児童の共生を目指した学級づくりにおける学級活動の機能
－学級会における教師の関わりに着目して－
○小田純也（筑波大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 2. 高等支援学校における教育と訓練の境界を探る
－教育と労働の接点における学校の役割の再考－
○中島弘和（元国立都城工業高等専門学校） |
| 17:25－17:50 | 3. 組織としての決定と相互行為の連関に対する社会システム理論を応用した分析——通常高校における「知的障害児・者」の進級・卒業をめぐる評価を事例として
○藤原良太（東北公益文科大学） |
| 17:50－18:15 | 4. ベトナムにおける障害のある子どもをめぐる教育機会
：一緒に学ばせる実践にみる留年に焦点をあてて
○白銀研五（びわこ学院大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－３部会

教育政策・制度

11月8日(土) 16:35－18:35 プレゼンテーションルーム

司会

菊地栄治（早稲田大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:35－17:00 | 1. 英語教育政策・改革が生み出す「望ましい」英語教師のジレンマ
○花田春香（一橋大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 2. 政策立案場面における「居場所」論の展開
○中西美裕（大阪大学大学院） |
| 17:25－17:50 | 3. 小学校の教科担任制導入をめぐる教育問題の構築過程
○齋藤楓美（神奈川大学大学院） |
| 17:50－18:15 | 4. 高等学校通信教育規程改正と通信制高校
○内田康弘（愛知学院大学）
神崎真実（京都教育大学・非会員）
土岐玲奈（星槎大学）
濱沖敢太郎（鹿児島大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－４部会

社会階層と教育（２）

11月8日（土） 16:35－18:35 207 講義室

司会

豊永耕平（近畿大学）

- | | |
|-------------|---|
| 16:35－17:00 | 1. 子どもの成績が親の教育期待に与える影響の学歴差
：サーベイ実験による検証
○太田裕一郎（大阪大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 2. 生徒の職掌希望形成に対する親の働きかけの影響
○山口哲司（東京大学大学院） |
| 17:25－17:50 | 3. 統計的因果探索によるウィスコンシン・モデルの検証
○増井恵理子（滋賀大学） |
| 17:50－18:15 | 4. 地方国立大生の大学進学理由の変遷
－ A 大学新入生の学歴意識に着目して－
○竹内正興（香川大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－５部会

進路と教育（３）

11月8日（土） 16:35－18:35 33講義室

司会

新藤慶（群馬大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:35－17:00 | 1. 高等専修学校における専門学科をめぐる進路指導
○尾河勇太（大阪大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 2. 高校魅力化の動きとその影響
○鈴木勇（大阪成蹊大学） |
| 17:25－18:15 | 3. 地元で暮らす若者のライフコース
—東日本大震災後の陸前高田出身者へのインタビュー調査より—
○清水睦美（日本女子大学）
妹尾渉（国立教育政策研究所）
日下田岳史（大正大学）
○堀健志（上越教育大学）
○松田洋介（大東文化大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－ 6 部会

学力（2）

11月8日（土） 16:35－18:35 404 講義室

司会

腰越滋（東京学芸大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:35－17:00 | 1. 小中学生の学習時間が学業成績に及ぼす影響
○大久保心（立教大学） |
| 17:00－17:25 | 2. 小・中・高校生の語彙力の学年変化と社会経済的地位
—JLSCP を用いた縦断分析—
○岡部悟志（ベネッセ教育総合研究所）
朝永昌孝（ベネッセ教育総合研究所）
大野志郎（東京大学・非会員）
数実浩佑（龍谷大学） |
| 17:25－18:15 | 3. 高校普遍化以前の中学生の学力と意識
：1964 年国際数学教育調査（FIMS）を用いて
○尾嶋史章（同志社大学）
○香川めい（大東文化大学）
○多喜弘文（東京大学）
平沢和司（北海道大学）
西丸良一（慶応義塾大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－ 7 部会

ジェンダーと教育（2）

11月8日（土） 16:35－18:35 303 講義室

司会

河野銀子（九州大学）

- | | |
|-------------|---|
| 16:35－17:00 | 1. 中国における若年ゲイ男性の大学時代の経験とアイデンティティ
○徐崢睿（上智大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 2. 家庭環境が性教育の効果に及ぼす影響の検証
○反橋一憲（愛知淑徳大学） |
| 17:25－17:50 | 3. 日本の高校における「ジェンダー・バイアス」に関する考察
：大学生が語る高校時代の体験から
○許英瑞（立命館大学大学院） |
| 17:50－18:15 | 4. 即興演劇「ザ・ベクデルテスト」から教師たちは何を省察するのか
：学校におけるジェンダー・バイアスに着目して
○園部友里恵（三重大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－８部会

高等教育：学生とキャリア（３）

11月8日（土） 16:35－18:35 32 講義室

司会

廣田英樹（国立教育政策研究所）

- | | |
|-------------|---|
| 16:35－17:00 | 1. どうして学生は授業に行かなかったのか
～シラバスと授業実態の乖離が与えた影響を探る
○大津麻紀子（茨城工業高等専門学校） |
| 17:00－17:25 | 2. 大学におけるライティング経験の職業的レリバンスの特徴は何か
○小山治（京都産業大学） |
| 17:25－18:15 | 3. 〈大学固有の学び〉を実感するのは誰か
―社会科学系卒業生アンケート調査の分析から
○濱中淳子（早稲田大学）
○葛城浩一（神戸大学）
吉田文（早稲田大学）
山内乾史（佛教大学）
大多和直樹（お茶の水女子大学）
武藤浩子（早稲田大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－９部会

社会的公正と教育（２）

11月8日（土） 16:35－18:35 44 講義室

司会

内田龍史（関西大学）

- | | |
|-------------|---|
| 16:35－17:00 | 1. マイクロアグレッションへ対抗する空間の可能性
—外国にルーツをもつ生徒の「抽出授業」に関する語りに注目して—
○土屋友衣子（大阪大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 2. オーストラリア・クイーンズランド州の〈多元的〉なインクルーシブ教育
—多様な背景を持つ子どもの教育機会を保障する学校と教育ネットワーク—
○原田琢也（金城学院大学）
竹内慶至（名古屋外国語大学）
濱元伸彦（関西学院大学）
堤英俊（都留文科大学・非会員）
新谷龍太郎（同志社女子大学）
伊藤駿（京都教育大学） |
| 17:25－18:15 | 3. 社会空間アプローチによる人権教育の分析
○石川朝子（下関市立大学）
○奥村美保（無所属）
川口俊明（福岡教育大学）
山田文乃（大阪公立大学）
榎井縁（藍野大学）
橋本幸一（元大阪大学大学院） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－ 10 部会

異文化間教育（2）

11月8日（土） 16:35－18:35 41 講義室

司会

三浦綾希子（中京大学）

- | | |
|-------------|---|
| 16:35－17:00 | 1. 特別枠校における外国につながる高校生の進路意識の形成
—学校との関係性に着目して—
○島沙也加（筑波大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 2. 学校における移民第二世代の子どもたちをめぐる相互作用
—国際教室の教師生徒間関係から見とる家父長制と資本制のダイナミズム—
○河村優花（日本女子大学大学院） |
| 17:25－17:50 | 3. 日本における移民の子どもの学力に関する分析
○中原慧（同志社大学） |
| 17:50－18:15 | 4. 外国人の子どもの移行における構造的制約と進路保障
—在留資格の壁をめぐる諸実践—
○今井貴代子（大阪大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

Ⅲ－Ⅱ 部会

テーマ部会（Ⅰ） 少子化をめぐる教育政策と実践

11月8日（土） 16:35－18:35 51 講義室

司会

尾川満宏（広島大学）

指定討論者

葉養正明（東京学芸大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:35－17:00 | 1. 人口減少社会における少子化対策の政策分析
：社会問題の〈教育化〉に着目して
○松村智史（名古屋市立大学） |
| 17:00－17:25 | 2. 韓国の少子化問題をめぐる政策形成に関する一考察
○渡辺達雄（金沢大学） |
| 17:25－17:50 | 3. 青少年の性行動・性教育の現状から考える少子化問題
○石川由香里（立正大学）
○苔米地なつ帆（武蔵大学）
○土田陽子（帝塚山学院大学） |
| 17:50－18:15 | 4. 地域雇用と新卒者のマッチングに関する研究
－地方の若年人口流出抑制に向けて－
○亀井あかね（東北工業大学） |
| 18:15－18:35 | 総括討論 |

IV－Ⅰ 部会

グローバル化と教育

11月9日（日） 9:30－12:00 32 講義室

司会

芝野淳一（中京大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:30－9:55 | 1. グローバルな「影の教育」研究をめぐる批判的考察
○藤村達也（奈良女子大学） |
| 9:55－10:20 | 2. マレーシアにおける音楽教育と検定試験
——学歴と直接関係しない資格の社会的な意味の検討
○田中李歩（神田外語大学） |
| 10:20－10:45 | 3. 公教育の周縁へのトラッキングメカニズム
：「家族滞在」のネパール出身の若者たちの経験から
○本間桃里（同志社大学） |
| 10:45－11:35 | 4. 在日ネパール人のふるさとバグルン
：移民排出地域におけるコンフリクトと持続可能性
○榎井縁（藍野大学）
○ハヤシザキカズヒコ（福岡教育大学）
○山ノ内裕子（関西大学）
SIM CHOON KIAT（昭和女子大学） |
| 11:35－12:00 | 総括討論 |

Ⅳ－２部会

特別支援教育（２）

11月9日（日） 9:30－12:00 31 講義室

司会

松浦加奈子（埼玉学園大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30－9:55 | 1. 児童生徒の教育の場の変更過程とその意味
○鶴宮慶（早稲田大学大学院） |
| 9:55－10:20 | 2. 発達支援領域における移行期の課題
—放課後等デイサービスの事例を踏まえた制度と実践の検討—
○白石恵那（東京大学大学院） |
| 10:20－10:45 | 3. 中学校における「発達障害」カテゴリーの変容可能性
——メンバー性の構成過程に着目して
○保坂克洋（山梨学院大学） |
| 10:45－11:35 | 4. ケアリング・デモクラシーとインクルージョンの再構成
○久保田裕斗（びわこ学院大学）
○佐藤貴宣（福井大学） |
| 11:35－12:00 | 総括討論 |

IV－3 部会

教師（3）

11月9日（日） 9:30－12:00 33 講義室

司会

有海拓巳（浜銀総合研究所）

- | | |
|-------------|--|
| 9:30－9:55 | 1. 誰が教員採用試験合格を「辞退」するのか
—高知県・鳥取県の採用戦略に見る教員確保の構造的課題—
○服部豪（名古屋大学大学院） |
| 9:55－10:20 | 2. 教員の労働時間短縮のための施策要因分析
○安藤来波（芝浦工業大学大学院） |
| 10:20－10:45 | 3. 「学校における働き方改革」をめぐる教師の語り
○露口幸将（広島大学大学院） |
| 10:45－11:10 | 4. 勤務時間と負担感にみる業務配分の不均衡
：X 県立高校教員を対象とした悉皆調査から
○菊地原守（鹿屋体育大学）
野村駿（秋田大学）
小田郁予（都留文科大学）
園田薫（慶應大学・非会員） |
| 11:10－11:35 | 5. 誰が教員になってきたのか？：出身階層・出身地域・性別
○松岡亮二（龍谷大学） |
| 11:35－12:00 | 総括討論 |

IV－４部会

社会階層と教育（３）

11月9日（日） 9:30－12:00 207 講義室

司会

大島真夫（東京理科大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30－9:55 | 1. 大学生の職業期待と大学入試の関係
：ネット調査で得た全国データを用いて
○西丸良一（慶応義塾大学） |
| 9:55－10:20 | 2. 大学１年生の職業選好に関する要因配置調査
○白川俊之（広島大学） |
| 10:20－10:45 | 3. 新卒採用の「けもの道」再考：選抜度に基づく大学間差異に着目して
○吉田航（国立社会保障・人口問題研究所） |
| 10:45－11:10 | 4. 日本企業の採用経路選択——新規学卒一括採用と中途採用の比較
○石田賢示（東京大学） |
| 11:10－11:35 | 5. 高卒高収入者はどのような職業キャリアを歩むのか
——東大社研パネル調査データの分析
○有田伸（東京大学） |
| 11:35－12:00 | 総括討論 |

IV－5 部会

専門教育と理系人材

11月9日（日） 9:30－12:00 41 講義室

司会

新谷康浩（横浜国立大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:30－9:55 | 1. フランスのグランドゼコールにおける女性エンジニア養成
○大前敦巳（上越教育大学） |
| 9:55－10:20 | 2. 専門学校の教員は先生であることをどのように捉えているのか
○山本優（宮崎産業経営大学） |
| 10:20－10:45 | 3. 「高専」へ投影された「工専」のシルエット
—高専創設当時の文献と初期高専卒業者へのインタビューから見えるもの—
○車田研一（独立行政法人国立高等専門学校機構） |
| 10:45－11:35 | 4. 文理融合教育のさらなる普及による理系人材創出に向けた基礎的研究について～中等教育における取組例を踏まえて～
○曾根博文（昭和女子大学）
○西野孝徳（昭和女子大学） |
| 11:35－12:00 | 総括討論 |

IV－6 部会

計量教育社会学

11月9日（日） 9:30－12:00 44 講義室

司会

王傑（慶應義塾大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:30－9:55 | 1. 2000年代以降の高校における生徒教師関係の変化
○須藤康介（明星大学） |
| 9:55－10:20 | 2. 私立高校選択にみる進学構造の階層化：授業料無償化をめぐる基礎的分析
○小西凌（三重大学）
山田航汰（常葉大学） |
| 10:20－10:45 | 3. 教育費の親負担主義の構造と負担規範の現状：2025年調査による分析
○白川優治（千葉大学） |
| 10:45－11:10 | 4. 学校外教育の累積的效果：因果媒介分析を用いた検討
○眞田英毅（武庫川女子大学） |
| 11:10－12:00 | 総括討論 |

IV－7 部会

ジェンダーと教育（3）

11月9日（日） 9:30－12:00 303 講義室

司会

眞鍋倫子（中央大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30－9:55 | 1. 文理選択の進路指導におけるジェンダー・バイアス
○田邊和彦（日本学術振興会・立教大学） |
| 9:55－10:45 | 2. 男性のジェンダー観と専攻分野の関連
——大学生・大学院生の質問紙調査による検討
○河野銀子（九州大学）
○木村治生（ベネッセ教育総合研究所） |
| 10:45－11:35 | 3. 性別専攻分離が維持されているのはなぜか？
——高等教育機関の多様化に着目した説明——
○打越文弥（ハーバード大学）
麦山亮太（学習院大学・非会員）
○小黒恵（独立行政法人 労働政策研究・研修機構）
寺本えりか（東京大学大学院）
豊永耕平（近畿大学） |
| 11:35－12:00 | 総括討論 |

IV－8 部会

高等教育：制度・政策

11月9日（日） 9:30－12:00 106 講義室

司会

小島佐恵子（玉川大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:30－9:55 | 1. 政策ドキュメントにおける「大学の国際化」の言説的意味
○小嶋緑（広島大学大学院） |
| 9:55－10:20 | 2. 「私は大学の一員だと思うか？」
—東アジアおよび南アジアにおける大学卒業生のステークホルダー意識の比較分析—
○黄文哲（京都情報大学院大学） |
| 10:20－10:45 | 3. 地政学的変化と豪州高等教育の国際化：2000年代以降の変化に着目して
○小竹雅子（三重大大学） |
| 10:45－11:35 | 4. 岐路に立つ女子大学—大学案内と当事者の語りからみるリアリティー
○志水宏吉（武庫川女子大学）
○新谷龍太郎（同志社女子大学）
○岡邑衛（甲南大学）
金南咲季（椋山女学園大学） |
| 11:35－12:00 | 総括討論 |

IV－9 部会

教育の歴史社会学

11月9日（日） 9:30－12:00 404 講義室

司会

濱貴子（関西大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30－9:55 | 1. 戦前期における工業教員養成所出身工業教員のキャリア特徴
○陳冠男（広島大学大学院） |
| 9:55－10:20 | 2. 明治初期における報徳社系私塾の地域的教育実践―冀北学舎を事例に―
○小峰隆広（早稲田大学大学院）
遠藤健（東京大学） |
| 10:20－10:45 | 3. いかにして「私的」な英検協会が「公的」な学校教育に関与できたのか？
○孫工季也（金沢学院大学） |
| 10:45－11:10 | 4. 東京都高校白書づくり運動に参加した母親の〈教育の公共性〉
○池本紗良（早稲田大学） |
| 11:10－11:35 | 5. 日教組「教師の倫理綱領」をめぐる解釈のポリティクス
○広田照幸（日本大学） |
| 11:35－12:00 | 総括討論 |

IV－10 部会

テーマ部会（2） 人口減少社会の新局面

11月9日（日） 9:30－12:00 51 講義室

司会

片山悠樹（愛知教育大学）

指定討論者

葉養正明（東京学芸大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:30－9:55 | 1. 鳥取県の相対的エリート層の高校生の学校適応・職業選択・地域移動
——公立進学校8校を対象としたパネル調査の分析
○津多成輔（島根大学）
○加藤一晃（名古屋芸術大学）
○小山田建太（立正大学）
上地香杜（名城大学）
遠藤健（東京大学）
長創一朗（武蔵野大学） |
| 9:55－10:20 | 2. ‘限られた’資源の中で描く未来
——人口減少地域の高校生の生活と進路展望
○尾場友和（大阪商業大学）
尾川満宏（広島大学）
藤村晃成（大分大学）
梅田崇広（愛媛大学）
伊勢本大（松山大学） |
| 10:20－10:45 | 3. 高等教育進学と初職就業にみる地方若年層の地域移動構造
○吉川徹（大阪大学大学院）
○日高正樹（島根県立大学短期大学部） |
| 10:45－11:10 | 4. 地方女子大学の今日的意義に関する検討
○飯島絵理（筑紫女学園大学） |
| 11:10－11:35 | 5. 産業構造の変容がトランジション経験に与える影響の地域差
○知念渉（大阪大学）
○市村望（一橋大学大学院）
表谷脩平（大阪大学）
上山浩次郎（北海道大学）
尾川満宏（広島大学）
金弘実久（広島大学大学院）
新藤慶（群馬大学）
都島梨紗（岡山大学）
野村駿（秋田大学）
水野聖良（大阪大学大学院） |
| 11:35－12:00 | 総括討論 |

感情の教育社会学——文学を素材に歴史と現代をつなぐ

11月9日(日) 13:00-16:00 207 講義室

【趣旨】

マックス・ウェーバーが、理解社会学の定式化に際して「感情」を社会的行為の動機の1つに位置づけたように、「感情」は社会学の理論的伝統において重要な概念である。「感情」は社会の構造的な力によって形成されると同時に社会を形成し変化させる力でもある。教育社会学になじみの深い問題や現象（例えば、生徒間の関係、いじめ・体罰・不登校、親子関係や家族の教育戦略、進学や地位達成をめぐる競争など）をより深く理解するうえでも「感情」への着目は不可欠である。

本課題研究では、「感情」に社会学的にアプローチする方法および素材として「文学」の可能性を探究したい。例えば、作品の内在的な理解が、馴染みのない時代や社会や集団のリアリティに接近し、抽象的な概念や命題のより深い理解や応用の助けとなりうる。しかし、それ以上のことをやろうとすれば、「現実」のデータを扱う経験科学の立場との葛藤が生じる。「メリトクラシー」概念がマイケル・ヤングの未来小説から生まれたことを知ってはいても、ヤングの真似をしようという勇者はなかなか現れない。

文学の世界をそのまま現実の反映とみなすことには慎重でなければならない。しかし、「感情」へのアプローチにおいて、文学が実証的なデータよりも現実に肉薄することがある。インタビューでは掘り上げることが困難な、無意識に追いやられがちな感情や、研究倫理的に扱いが難しい感情も、文学だからこそ表現できることがある。さらに文学は、特定の歴史的社会的条件に刻印された構造的な感情（憧憬、羨望、嫉妬、屈辱、煩悶、悲憤慷慨、刻苦勉励など）を具体的な文脈とセットで保存・蓄積する「感情のアーカイブ」とみなすことができる。忘れられた感情をそこから解凍する作業は、歴史と現代を新たな形でつなぎ直すことにもなる。

優れた試みはいくつもあるものの、ともすれば個人技にとどまり、方法論的な議論はいまだ不十分である。量的研究法との相補性や他の質的研究法との共通点と相違点なども視野に入れつつ、文学を通した「感情」へのアプローチが教育社会学研究に新たな展開をもたらす可能性について議論したい。

司会：井上義和（帝京大学）、多賀太（関西大学）

報告1：井上義和（帝京大学）・多賀太（関西大学）

感情の教育社会学——素材としての文学の可能性を探る

報告2：高田里恵子（桃山学院大学）

不機嫌なエリートたち——自虐と純情と

報告3：竹内里欧（京都大学）

蜃気楼としての『市民』の原像

——忘れ去られたベストセラーに当時の人々の「幻想」「憧れ」をみる

討論者：大澤聡（近畿大学）

（研究委員：井上義和、多賀太、粕谷圭佑、古田和久）

公教育で保障すべき教育機会をどう考えるか —「普通教育」とは何かを問いながら

11月9日（日） 13:00－16:00 51 講義室

【趣旨】

教育社会学の研究では教育機会の概念が重要であり、学校（一条校）の制度を前提に、生まれ育つ背景や生まれもつ特性により子どもたちの学校への参加が不十分となる状況や、学校から排除される子どもたちが存在する状況を、教育機会の保障に問題があると捉える視点はあったと考えられる。しかし、その問題への対応方法を模索するときに必要となる、公教育で保障すべき教育機会についての検討は、教育社会学では十分に深められてこなかったのではないだろうか。

子どもたちがさまざまな次元で多様という事実を受けとめ、現在増加している不登校の子どもたちを含めたすべての子どもたちに教育機会を保障する方策の検討は、教育政策論議において進められつつある。例えば、2016年に成立した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」で学校以外の場での教育の重要性が明文化されたことを受け、フリースクールなどで教育を受けること・学ぶことを「普通教育に相当する教育」として公的に認定しうるか、どのような条件を整えれば認定しうるかが問われている。

加えて近年は、急速に進化し普及するAI・ICTなどの情報技術が教育・学習にどのような影響を及ぼすかという新たな論点も重要となっている。公教育でのAI・ICTの適切な活用方法を検討するうえでも、どのような内容をどのような方法で行う教育が「普通教育」あるいは「普通教育に相当する教育」かについて検討する必要が生じている。

そこで本課題研究は、公教育で保障すべき教育機会についての検討に資するため、まず経験科学としてのアイデンティティを確立してきた教育社会学で規範的な問いを扱う意義と方法論を共有したい。また、「普通教育」とは何かを具体的に検討する手がかりを得るため、教育の内容、方法、担い手、場に関する研究の知見を共有したい。そして「普通教育」概念についての新たな考察をもとに教育機会の保障の問題に取り組むには、教育社会学の研究はどのような発展を目指したらよいか議論したい。

司会：卯月由佳（国立教育政策研究所）、林明子（大妻女子大学）

報告1：森直人（筑波大学）

教育社会学は規範的／教育的な問いといかに向き合うか

報告2：五十嵐素子（北海学園大学）

「普通教育」の実践をどう捉えるか

報告3：酒井朗（上智大学）

「普通教育に相当する教育」の保障のあり方を問う

討論者：数実浩佑（龍谷大学）

（研究委員：卯月由佳、胡中孟徳、林明子、日下田岳史）

＜教員養成政策に関する意見交換会＞

11月9日（日） 16:00－17:00 303 講義室

【趣旨】

1988年教免法の改正に伴い「教育社会学」という名前が消えて以来、教職課程の中で教育社会学の存在は次第に希薄になり、2025年現在、教免法第三欄「教育の基礎的な理解に関する科目」の「教育に関する社会的、制度的、または経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」に、かろうじてその片鱗をとどめるに過ぎません。しかも、「教育に関する社会的、制度的、または経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」は10単位を構成する6項目のうちの1項目にすぎず、教育社会学プロパーの担当者は必置ではなくなっています。

さらに、「教員免許取得の単位数減少」、「＜多様な専門性を有する＞者への教職の拡大」という基本認識のもと、教免法の改正・教職課程の＜改善＞の議論がスタートしている今、早急に対応をとらなければ、議論から取り残され、教職課程における教育社会学の消滅の危機に一層拍車がかかる可能性があります。それは、教員養成において教育社会学が果たしてきた知的な貢献が看過され、教育社会学研究者の就職先の減少という問題にダイレクトにつながることを意味します。

こうした状況に対応するため、今次の大会では、教職課程担当者やそれに関心を持つ会員を中心に、現実的な課題を共有・検討し、教員養成の中で、さらには実践現場の中で「教育社会学のプレゼンスを高める」具体的な方策について議論する場を設けます。今回の試みは、今次の大会だけではなく、継続的に行う予定です。

関心のある会員の方は、ぜひご参加ください。

呼びかけ人：片山悠樹 金子真理子 川村光 中村高康 松岡亮二 油布佐和子
(50音順)

【参加対象】 どなたでも参加可能

【参加費】 なし

【実施形態】 対面

【参加申込】 必要ありません。直接お越しください。

グローバルスタディーズ叢書 4
グローバル化と日本

内海博文 編著



グローバル化と日本

〈グローバル・スタディーズ〉叢書 4

内海博文編著

A5・452頁・5280円

新自由主義に基づくグローバル化の限界が見えてきた。狂ったアメリカの関税、領土拡張する独裁者、国家ファーストの狂信、世界は2050年問題の前に日本の政治経済・労働・エスニシティとジェンダー・教育・科学技術・スポーツ・社会運動・環境・都市・災害・福祉・文化等、各領域でどのような変化がもたらされているかを16人の論客が描く。

官邸主導時代の
高等教育政策

変貌の諸相と課題



日本高等教育学会アジア・オセアニア研究委員会 編著

何かが変わる高等教育行政の中立性と専門性
——その再構築に向けて——

2010年代以降、高等教育の政策・決定での文科省の役割が低下し、内閣(官邸)の影響力が強化された。政府・大学関係者らへのインタビュー調査、海外事例との比較分析、国公私立大ごとの影響の差異等、多角的視座からその構造転換の実態を捉えた関係者必読書!

官邸主導時代の高等教育政策

—変貌の諸相と課題— A5・352頁・3960円

JAHERプロジェクトチーム 羽田貴史編著

2010年代以降、高等教育の政策・決定での文科省の役割が低下し、内閣(官邸)の影響力が強化された。政府・大学関係者らへのインタビュー調査、海外事例との比較分析、国公私立大ごとの影響の差異等、多角的視座からその構造転換の実態を捉えた関係者必読書!

ミネルバ大学を解剖する

松下佳代編著 A5・328頁・3520円

世界の大学教育の常識を覆したミネルバ大学。その設立から十数年経った今、実際はどうか。大学目標はじめ、カリキュラム、学習評価、授業、課外活動、教職員、学生の学び等、3年間のインタビューと訪問調査を通じて翻訳本『ミネルバ大学の設計書』と学生の成長を検証する。

ミネルバ大学を
解剖する

編著 松下佳代



「世界一ユニークな大学」で
教員は何を教える
学生は何を学んでいるのか?

ミネルバ大学は、1983年に設立された私立大学で、その教育理念やカリキュラム、学習評価、授業、課外活動、教職員、学生の学び等、3年間のインタビューと訪問調査を通じて翻訳本『ミネルバ大学の設計書』と学生の成長を検証する。

第二次世界大戦後の
アメリカ高等教育

アメリカ高等教育史

American Higher Education since World War II: A History

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後のアメリカ高等教育史

第二次世界大戦後の アメリカ高等教育 (II)

R・L・ガイガー著 原圭寛他訳

A5・528頁・7040円

I巻II巻合わせてアメリカ高等教育の400年間の制度と社会を俯瞰できる壮大なドラマ、比類なき通史。II巻目にあたり新たな用語解説やI巻『アメリカ高等教育史』の索引も同時収録。

大学教育の質的研究法

S・R・ジョーンズ、V・トリス、J・アルメイダ著 山田嘉徳・河井亨・新見有紀子翻訳 A5・472頁・5280円

質的調査研究の土台となる諸理論、データの収集・分析手法を網羅的かつ丁寧に解説する。初学者に最適のテキストであるとともに、教育研究者が担う倫理的・社会的責務も改めて投げかけられた、教育研究に携わる関係者の必読の一冊。

Signifying the Complexity
of Qualitative Research in Higher Education:
Essential Elements and Issues

大学教育の
質的研究法

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

Signifying the Complexity of Qualitative Research in Higher Education: Essential Elements and Issues

アメリカ高等教育史

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

アメリカ高等教育史 (I)

ガイガー著 原圭寛他訳 A5・744頁・9460円

17世紀のカレッジ創設から米国の高等教育は始まった。宗教戦争から科学技術の発展、世界大戦期へと様々な事件とそれに対応する高等教育改革を展開し遂げてきた。その400年の複雑な歴史を創設期から丁寧に辿り、高等教育の概念を統一し、用語解説も付す。

労働学校における生の 充溢——生涯教育の空間論序説

奥村旅人著 A5・296頁・4620円

労働学校で学んだ当時の学生たちのオーラルヒストリーや一次資料を用いた歴史研究等、多領域の視野からこの教育空間へと深く切り込む。労働/教育双方の研究から見逃されてきた新たな学術的境地を切り拓いた実証的研究!

労働学校における
生の充溢

奥村旅人 著



大塚豊著

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

学長室の独り言

北欧の教育新潮流

未来につなぐ子育てと学び

◎2420円

佐藤裕紀、林寛平、中田麗子、本所恵、北欧教育研究会 編著
高校のAI新教科から多文化共生、環境教育、そして子どもの社会参加まで。変化する北欧の教育と社会を、実践の現場から描く。

海外の教育のしくみをのぞいてみよう

日本、ブラジル、スウェーデン、イギリス、ドイツ、フランス
園山大祐 編著 ◎3300円

幼児教育から高等教育までの教育制度や学校事情について、現地での体験やエピソードも交えて、疑問に答える形で紹介する。

東南アジアの リバー・ジェンダー・ギャップ

進む女性の高学歴化は何を意味するのか

鴨川明子、服部美奈 編著

◎2970円

「女性の高学歴化の光と影」「男子はどこへ問題」「ジェンダー二元論を懐疑し、超える」といったテーマを軸に、現状や背景解明を試みる。

子ども若者の権利と政策【全5巻】

末富芳・秋田喜代美・宮本みち子 監修 ◎各2970円

①子ども若者の権利とこども基本法

末富芳 編著

③子ども若者の権利と学び・学校

末富芳 編著

④若者の権利と若者政策

宮本みち子 編著

▼当事者、実践者、研究者、行政が多彩な視点から未来を論じる。

群れから逸れて 生きるための自学自習法

向坂くじら、柳原浩紀 著

◎1980円

群れず、つまず、あなた自身でいるための学び方とは。注目の詩人と教育者による、アウトサイダーのための勉強論。朱喜哲（哲学者）推薦！

モビリティーズ研究のはじめかた

移動する人びとから社会を考える

◎2860円

伊藤将人、鍋倉咲希、野村実、吉沢直、金磐石、鈴木修斗 編著
「移動」の視点で人々の経験や生活世界を通して社会の不等や変動を捉え、政策や実践に対する新たな視座を提示する。

国際学力調査からみる 日本の教育システム

教育による〈効果〉と〈格差〉の計量分析

森いづみ 著

◎5940円

国際学力調査や社会調査の分析を通し、生徒の社会経済文化的背景が学力や意欲におよぼす影響を、国際的な視点から解明する。

公教育の再編と子どもの福祉①〈実践編〉
「多様な教育機会」をつむぐ
ジレンマとともにある可能性

公教育の再編と子どもの福祉②〈研究編〉
「多様な教育機会」から問う
ジレンマを解きほぐすために

森直人、澤田穂、金子良事 編著 ◎各3300円

▼「多様な教育機会確保法案」が提起した問題を受け、公教育の枠を超えた多様な学びの場を探求し、そのジレンマと可能性を模索するシリーズ

明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174

*図書目録送呈 *価格税込
https://www.akashi.co.jp/

技能実習生と日本語のリアル

これからの外国人労働者受け入れ制度と日本語教育のために◎道上史絵

問題なのは日本語教育だけではない。彼らを取り巻く社会と受け入れ制度の在り方だ——ベトナム出身の技能実習生への量的・質的調査を通じ、日本語学習・使用の実態を解明。現実即した日本語教育施策の必要性と受け入れのあり方について提言する。A5判・三五六頁、六〇五〇円

一歩進んだ日本語教育概論

実践と研究のダイアログ◎西口光一 監修／神吉宇一、嶋津百代、森本郁代、山野上隆史、義永美央子 編

日本語を学ぶことの先にある、社会づくりを視野に入れた日本語教育へ！教育実践と研究活動の両者を往還することで、日本語教育についての基本的な視点や姿勢を学べる入門的概説書。A5判・二七八頁、二八六〇円

多文化社会の学校と教師教育

ノルウェーと日本の国際比較研究から◎北山夕華、橋崎頼子 編

「多文化化」する教室の中で、子どもたちの多様性に応じられる教育とは。日本と多文化社会・ノルウェーとの比較を通じ、日本の教師教育の課題や可能性を考察。様々な文化的・民族的背景を持つ学習者に対応できる、体系的な教師教育のあり方を検討する。A5判・二七四頁、三九六〇円

コロナ禍の声を聞く【阪大リブフル】

大学生とオールリアルストーリーの出会い◎安岡健一 監修／大阪大学日本学専修「コロナと大学」プロジェクト編

あなたの「語り」を聞かせてください——大学生が聞き取った、コロナ・パンデミックの幕開けから二〇二〇年に至るまで市井の人々のオールリアルストーリー。四六判・二五四頁、二二〇〇円

学力格差を克服する学校文化

効果のある学校のエスノグラフィー◎西徳宏

社会経済的格差が拡大する現代日本において、公正な学校教育はいかにして実現可能か。「誰も見捨てない」独自の教育理念が継承されている小学校における参与観察から、「効果のある学校」が持つ文化の成立と継承の実態を克明に描き出す。A5判・四四六頁、六九三〇円



大阪大学出版会

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-7 大阪大学ウエストフロント
Tel:06-6877-1614 Fax:06-6877-1617 HP:www.osaka-up.or.jp
直接ご注文は E-mail:eigyo@osaka-up.or.jp へ《上記価格税込》

写真が豊富で見ただけでも楽しい！
日本と世界の学校の違いがよくわかる！

見たい、知りたい 世界の学校

監修 二宮 皓 (にのみや あきら)

広島大学名誉教授、UMAP(アジア太平洋大学交流機構)
アンバサダー。



全31か国
を収録！

調べ学習
にも使える！

小学4年生以上
の漢字に
ルビ付き

本書の特長

- ＊実際の現地の写真を豊富に掲載しています
- ＊国際教育の専門家の先生方(35名)が国別に執筆されています
- ＊学校の1日の授業構成をわかりやすく図解しています
- ＊小学生から中学、高校、一般の方まで読める内容です
- ＊近隣のアジアの国々を多く掲載しています
- ＊各国の特徴的なお祭り(祝祭)も写真付きで紹介しています



- B5判・上製・120ページ
- 定価 4,180円 (本体 3,800円+税)
- ISBN : 978-4-7619-3060-8
- NDC : 372

詳しくは、こちらをクリックして「学事出版」ホームページをご覧ください。



学事出版

千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F TEL03-3518-9016 FAX03-120-655-514



就「社」社会で就「職」する若者たち

一専門学校の生の初期キャリア

●片山悠樹 編著

定価3,080円

「職」を手にした現代の若者たちの行方とは。「職業」中心のキャリアを歩む若者に焦点をあてる。専門学校生のキャリアを追跡した調査研究。



近代日本小学校教員検定制度史研究

一地方における試験検定・無試験検定制運用と受験の実態

●丸山剛史・井上恵美子・釜田史・白石崇人・大谷奨・滝澤朋恵・内田徹 著

定価4,730円

旧学制下における小学校・国民学校の教員資格を認定する小学校教員検定制に関する歴史的研究。小学校教員検定制の全体像解明に努める。



教員志望学生の不安や悩みをどう理解するか

一現代アメリカにおける支援実践から

●太田知実 著

定価3,740円

多文化教育を基盤とする、現代アメリカの動向を手かりに、問いに向き合う。教員志望学生、また、若手教員を育てる社会の在り方を問う。



現代アメリカにみる「教師の効果」測定

一学力テスト活用による伸長度評価の生成と功罪

●西野倫世 著

定価4,950円

学力テスト結果を通じて教師の責任を問う。理論的実践的展望を得る上で必要な事例研究。「教師の効果」とは何を指し何をもちて判断されるべきか。



ブルデューの教育社会学理論

一教育システムと社会階級・社会秩序の再生産と変革の理論

●小澤浩明 著

定価3,740円

「権力と正統性の一般人間学」の基礎理論としての教育社会学理論を再構成し、新たなブルデューの教育社会学理論像を提示。



児童養護施設の生活環境のダイナミクス

一家庭で暮らせない子どもの育ちと職員の実践

●山口季音 著

定価2,750円

児童養護施設における子どもの「育ち」、職員と相互に繋ぐ生活環境の実態に迫る。フィールドワーク調査から見えてきたものとは。



「だれが教師をめざすのか」の教育社会学

一「観察による徒弟制」と教員養成

●太田拓紀 著

定価2,970円

「だれが教師をめざすのか」をテーマに、現代の若者が教職を選択し、養成段階にいたるまでの過程とそこに潜む課題を検証。今後の教職を考える方に。



不登校問題と子ども・若者の「居場所」の現在

一不登校の子どもが生きる「社会」を拓く

●早稲田大学教育総合研究所 監修

定価1,100円

不登校問題の変化、フリースクールの子どもの思いなどの報告提案から、子ども・若者の居場所と学校の視点と先進国の事例を交えた座談会も収録。



〈子ども学〉論集

●石黒万里子・青木研作・近藤清華 編著

定価2,200円

子ども学について研究するための多角的な視点やさまざまなアプローチに触れ、自身の問題関心と向き合うことをねらいとして構成された論文集。



批判的思考と道徳性を育む教室

一「論争問題」がひらく共生への対話

定価2,970円

●ネル ノディングス・ローリー ブルックス 著/山辺恵理子 監訳

答えの出ない「論争問題」を授業でどう扱い、どう子どもたちとともに考えていけばよいのか。対話が紡ぐ、共生への道。



未来の教育を創る教職教養指針

教育と社会

定価2,420円

●油布佐和子 編著/山崎準二・高野和子 編集代表

現代社会のあり様と教育との関係をどう捉えるか。さまざまな領域の実態と課題から教育・学校の実態をマクロな視点で捉える。



「学校教育と社会」ノート 第四版

一教育社会学への誘い

●山内乾史・武寛子 著

定価2,530円

教育社会学の視点から学校・大学と社会のかかわりについて分析。日本および先進諸国の事例を随時織り交ぜて行う。

月刊「教育展望」

毎月1日発行、A5判、64頁、定価493円（448円＋税）

2025年 特集

- 9月号 今、求められる教員研修の在り方
- 7・8月合併号 学習指導要領の改訂に向けた文科大臣「諮問」をどう見るか―第2回
- 6月号 教育格差への対応
- 5月号 学校における防災・防災教育の現在とこれから
- 4月号 学習指導要領の改訂に向けた文科大臣「諮問」をどう見るか―第1回
- 3月号 問題を発見し解決していく力の育成
- 1・2月合併号 学校における働き方改革の現在
- 2024年 特集
- 12月号 第53回教育展望セミナー テーマ別報告
- 11月号 第53回教育展望セミナー 全体会報告
- 10月号 幼児教育と小学校教育の接続・連携を考える
- 9月号 子どもの抱える困難と生徒指導
- 7・8月合併号 GIGAスクール構想と学びの姿
- 6月号 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の現在

「教育展望」臨時増刊

セミナー 研究討議資料

A5判、定価2619円（2381円＋税）

- No.57 (第54回教育展望セミナー)
子どもが新たな時代の創り手となる学校教育の構築
―学習指導要領の改訂に向けた提言―
2025年7月発行、88頁
- No.56 (第53回教育展望セミナー)
変革の時代の学校教育を展望するIV
―学習指導要領に基づく教育課程の実施状況と次期改訂に向けての提言―
2024年7月発行、104頁

一般財団法人 **教育調査研究所**

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館
TEL：03-3520-2970 FAX：03-5579-6574
E-Mail：chouken@estate.ocn.ne.jp

酒井朗 編著 A5判上製248頁税込2970円 ISBN978-4-326-25182-7

「小一の壁」を検証する

就学の社会学

社会問題化した背景と、家庭と学校・国・社会との関係を検討する。

園山大祐 編著・監訳／ソッティエーレ・マルコ 監訳
A5判上製420頁税込6380円 ISBN978-4-326-60378-7

移民の教育政策を制度から問いなおす

―フランスにみる新規移民からその子孫まで―

半世紀を経たフランスの移民政策から我々は何を学ぶことができるか。

園山大祐 監訳・監訳／田川千尋 監訳／
京免徹雄・小畑理香 編著
A5判上製448頁税込5500円 ISBN978-4-326-60354-1

教師の社会学

―フランスにみる教職の現在とジェンダー―

フランスの教職の事例を検証し、日本の教育施策への示唆を見出す。

石岡 学
A5判上製288頁税込4400円 ISBN978-4-326-25188-9

一〇〇年前の「入試改革」

―一九二〇年代中等学校入学難問題にみる教育と選抜―

歴史的背景を解き明かし、現代に続く教育と選抜の問題の本質に迫る。

荒牧草平
A5判上製264頁税込4620円 ISBN978-4-326-60361-9

子育て世代のパーソナルネットワーク

孤立・競争・共生

子育て意識とパーソナルネットワークの対応関係を調査により解明。

今井 聖

A5判上製256頁税込4400円 ISBN978-4-326-25184-1

子どもの自殺問題の社会学

―学校の「責任」はいかに問われてきたのか―

子どもの自殺はどのように学校と関係づけられ、理解されているのか。

濱中淳子・葛城浩一 編著
四六判上製260頁税込3300円 ISBN978-4-326-65416-8

〈学ぶ学生〉の実像

―大学教育の条件は何か―

（大学固有の学び）を支えるために必要な条件をあぶり出す。

*表示価格は10%税込



勁草書房

<https://www.keisoshobo.co.jp>

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

武井 哲郎・矢野 良晃・橋本 あかね 編著

不登校の子どもとフリースクール

持続可能な居場所づくりのために

156 頁 2,200 円

民間フリースクールが子どもの最善の利益を守りながら運営を続けるためには？
事業継続のための葛藤と格闘、現場の苦悩や失敗に学ぶ。



前田 麦穂 著

戦後日本の教員採用

試験はなぜ始まり普及したのか

190 頁 4,180 円

「倍率信仰」を問い直す「教員採用試験」の歴史社会学。
日本社会は「学校の先生」をどう選んできたのか。
教員採用試験という「当たり前」を問い直す。



本間 千尋 著

ピアノと暮らす

日本におけるクラシック音楽文化の受容と展開

324 頁 4,180 円

教養・趣味・教育の狭間で、ヤマハ音楽教室、ピティナ・ピアノコンペティションは日本のクラシック音楽文化やピアノ文化の普及にどのような影響を及ぼしたのか。



濱 貴子 著

職業婦人の歴史社会学

320 頁 7,370 円

職業婦人と呼ばれた女性たちの実態・表象分析から、ジェンダー秩序の形成と変容のプロセスを、歴史社会的に明らかにする。



佐藤 智美 著

女性教員・女性校長が語るジェンダー平等

〈教育改革〉の中の困難と連帯

216 頁 3,300 円

不平等な学校組織や慣習に対して、連帯し、変革をめざし闘ってきた主体としての姿を描き、学校現場の女性教員にエールを送る。



探究学習研究会・清水 優菜・村松 灯・田中 智輝・荒井 英治郎
大林 正史・松村 智史・古田 雄一・武井 哲郎・柏木 智子 編著

「探究学習」とはいうけれど

学びの「今」に向き合う

146 頁 1,980 円

探究学習に関する先生方の悩みや不安に対し答えを示すことは難しいが、理論・データ・事例から「探究学習」の本質に迫る。



晃 洋 書 房

京都市右京区西院北矢掛町7番地
<https://www.koyoshobo.co.jp>

TEL 075 (312) 0788 / FAX 075 (312) 7447
※価格はすべて税込

〈真実〉でも〈フェイク〉でもなく 「つくれる事実」という視点から 教育問題を読み解く、 メディアリテラシー実践の書!

深刻な教育問題を解決するには、その問題が〈ある〉のではなく、
〈つくれる〉ものであるという逆転の発想が必要だ。

本書は、「非行」「いじめ」「発達障害」など、終わりのない教育問題について、
「問題はつくれる」という構築主義の見方・考え方から新たな対応策を探る。

【主な内容】

序——教育問題と子ども観

第1章 「事実」はつくれる——「問題」が〈ある〉という前提を問い直す

第2章 少年犯罪「凶悪化」のイメージをつくり出す——公式統計とメディア報道の検証

第3章 社会的注目を集める「量的増加」言説——「予測」と「現実」の関係問い直す

第4章 問題現象の動機と原因を探究する——責任帰属を巡る攻防

第5章 学校での「発達障害児増加」は何を意味するか——「実態」なのか、「構築」なのか

終章 教育問題を支配する「早期発見」という呪縛——医療の論理か、教育の論理か

Amazonでの
ご購入



Rakutenでの
ご購入



紀伊国屋書店での
ご購入



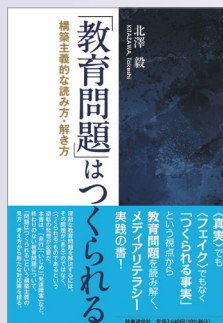
*コチラから
ご購入いただけます!

最新刊

立教大学名誉教授
北澤 毅〔著〕

構築主義的な読み方・解き方

教育問題は つくれる



◆四六判並製 / 256頁
◆定価2,640円(税込)

【内容に関する問い合わせ】 時事通信出版局 営業企画部

Tel.03-5565-2155 mbook@book.jiji.com <https://bookpub.jiji.com>

的確に社会を読みとり、課題に挑む

社会と調査

No.34 特集 外国にルーツを持つ人たちをめぐる調査

無作為抽出による全国調査 永吉希久子
在日外国人を対象とする Web 調査の可能性と課題 藤媛媛・埴淵知哉
研究と実践を往復するソーシャル・アクション 田中雅子
中国帰国者研究に見るオートエスノグラフィーの可能性 南 誠 (梁雪江)

米村千代／大野志郎・朝永昌孝・木村治生・藤原 翔・松本留奈・福本優美子／神林博史・三輪 哲・阿部晃士・小川和孝・鈴木 努・鈴木伸生／佐藤哲也／松信ひろみ／及川 高／藤 杏子／宮脇舞希／香川めい／尾川満宏／武田俊輔／真鍋一史／藤村博之／神林博史・三輪 哲／下瀬川 陽／佐藤典子／川野英二／西野理子／大久保将貴／石田 浩／石田賢示／吉田耕平



定価 本体 1,200 円＋税
『社会と調査』は年 2 回発売 (3 月、9 月)

発行・編集 一般社団法人 社会調査協会

東京都文京区本郷 5-25-18-3F
TEL: 03-6273-9784 FAX: 03-5684-0374
<https://jasr.or.jp/>

入会申し込みについては、本協会ホームページをご覧ください。

制作・販売 株式会社 京都通信社

京都市中京区室町通御池上る御池之町 309
TEL: 075-211-2340 Mail: shigotoba@kyoto-info.com
<https://www.kyoto-info.com/>

書店にない場合は、京都通信社までお問い合わせください。

購入方法
1 研究室や図書館などでの定期購読をおすすめします。発売元の京都通信社にメールでお申し込みください。
2 個人購読は、もよりの書店を通じてお申し込みください。
※会員の方がたには、特典の 1 つとして無料配布しています。社会調査協会では販売を行っておりません。

「教育の情報化」政策

ICT教育の整備・普及・活用
開沼太郎 著 3960 円

基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論

阿内春生 編 2750 円

小学校教員のための安全管理

自然災害編
濱名陽子 編 2200 円

シン防災

災害研究のこれまでとこれから
神戸学院大学現代社会学会編 2750 円

イギリス教育学の社会史

学問としての在り方をめぐる葛藤
マッカロック&コーワン 著／小川佳万・三時眞貴子 監訳 4180 円

教育支援と排除の比較社会史

「生存」をめぐる家族・労働・福祉
三時眞貴子・岩下誠・江口布由子・河合隆平・北村陽子 編 4620 円

黒人ハイスクールの歴史社会学

アフリカ系アメリカ人の闘い 1960-1980
ルーリー&ヒル 著／倉石一郎・久原みな子・末木淳子 訳 3300 円

テキストと映像がひらく教育学

倉石一郎 著 3080 円

◆好評既刊

教師を目指す人のための カウンセリング・マインド

「改訂版」
前林清和 編 2200 円

〈驚き〉を呼び込む自然体験学習

環境を学ぶ心身をつくる第一歩
関礼子・井上真理子・太田和彦 編 2750 円

映像と旅する教育学

歴史・経験のトビラをひらく
倉石一郎 著 3080 円

◆新刊

職業教育とジェンダーの比較社会史

近現代における女性と戦争障害者への就労支援

北村陽子 編 4620 円

◆叢書・比較教育社会史シリーズ新刊 媒介者とマイノリティの教育社会史

人と教育をつなぐ [11月発売]
倉石一郎 編 4180 円

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町 3-1
TEL 075-502-7500 FAX 075-502-7501

昭和堂 出版

info@showado-kyoto.jp * 価格 10% 税込み
<http://www.showado-kyoto.jp>

教育学年報

知的で自由な対話を活性化し
教育研究を切り拓く

【第4期・2025年8月刊行】

16号

教育の自由/不自由

浅井幸子 隠岐さや香 石井英真
仁平典宏 丸山英樹 編

【第3期・既刊好評】

12 国家

青木栄一 丸山英樹 下司 晶 濱中淳子
仁平典宏 石井英真 編
3400円(328頁、2021年刊)

13 情報技術・AIと教育

石井英真 仁平典宏 濱中淳子 青木栄一
丸山英樹 下司 晶 編
3600円(344頁、2022年刊)

14 公教育を問い直す

佐久間亜紀 石井英真 丸山英樹 青木栄一
仁平典宏 濱中淳子 下司 晶 編
4600円(456頁、2023年刊)

15 生涯学習

丸山英樹 濱中淳子 青木栄一
石井英真 下司 晶 仁平典宏 編
4200円(400頁、2024年刊)

教育史像の脱構築

佐藤 学

◎ 近代化言説の系譜学

《deconstruction》のメソッドによって、日本近代の教育史像の脱構築を試みたモノグラフのアンソロジー「挫折の記憶」この視座によってのみ改革の実践の歴史は現在の実践と内在的なつながりを獲得できる

3400円

愛と創造の教育学

矢野智司

◎ 境界を開くためのレッスン

人間と自然との支配的な関係論理を組み替え、教育的な思考法を刷新し、二世紀の世界市民形成への新たな教育を拓く思考と感受性の形を考へる

3400円

生きているもののどうしの想像力

◎ アニミズムがひらく生命の保育・教育

《根源的な生命想像力》とは——虫や草、石や風と対話する子どもたちの世界を共にすること、持続可能な未来へ向けた保育・教育の可能性を発見する

3000円

教育分野における地方自治体の財政行動

廣谷貴明

◎ 地方分権改革以降の学校統廃合の分析

《学校統廃合と地方財政効率化》は本場か？通説的な理解とは裏腹に、なぜか財政運営が非効率的になる自治体も、人口減少社会における教育財政の在り方を考へる

4000円

中嶋哲彦・広田照幸 編
教員の長時間勤務問題をどうする？
◎ 研究者からの提案

劉 麗鳳

◎ 中国農村中学校の生徒と
中学中退 教師のエノケンクライフ

3800円

前原健二
現代ドイツの教育改革

◎ 学校制度改革と「教育の理念」の社会的正統性

高宮正貴

◎ J・S・ミルの教育思想

3800円

矢野智司・井谷信彦 編
教育の世界が開かれるとき

◎ 同僚教育学的思考を奨励させるのか

林 潤平

◎ 自然愛をめぐる教育の近代日本

3600円

赤本（一九三八〜一九四一）

◎ 内務省児童読物統制・佐伯郁郎とその朋友

福元真由美

◎ 都市に誕生した保育の系譜

3500円

広瀬裕子 編
カリキュラム・学校・統治の理論

◎ ポスト・グローバル化時代の教育の枠組み

◎ 日本教育学教育勅語問題フーキンググループ編
教育勅語と学校教育

2400円



世織書房

〒220-0042 横浜市西区戸部町7-240 文教堂ビル3階 TEL045-317-3176 / FAX045-319-0644

seori@nifty.com https://seorishobo.com (税抜)

文系大学生は専門分野で何を学ぶのか

● 専門分野別習得度から考える

学生時代に身につけた専門分野の知識は仕事とどう関連するのか？
大学時代の学びはなぜ必要なのか？
大学時代の学びはなぜ必要なのか？
大学時代の学びはなぜ必要なのか？

若者たちが学び育つ場所

● ヨーロッパの早期離学対策の現場から



文系大学生は専門分野で何を学ぶのか

● 専門分野別習得度から考える

文系の学生が大学で習得した知識や学びは、仕事や卒業後の人生にどう関連しているのか？
2970円



「最近の大学生」の社会学

2020年代学生文化としての再帰的ライフスタイル
小川豊武ほか 編著

Z世代？ コロナ世代？ スマホ世代？
貴重な大学生調査から、さまざまなカテゴリーにされる現代学生の複雑な実像に迫る。
2970円



インクルーシブ教育の比較社会学

日本とスコットランドの現場から
伊藤駿 著
その実現を机上の空論としないために——国内外の先進的な実践現場での参与観察とインタビューから、インクルーシブな教育の障壁と実現可能性を考察する。
46200円

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15
TEL 075-723-0111 FAX 075-723-0095
https://www.nakanishiya.co.jp/【税込価格】



東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 共同研究

「子どもの生活と学び」研究プロジェクト



東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所は、「子どもの生活と学び研究プロジェクト」の一環として、2015年度から約2万組の小学1年生～高校3年生の親子を対象にした「子どもの生活と学びに関する親子調査」を実施しています。本調査は、同じ対象を継続的に追跡するパネル・データであるとともに、親子ペアで回答してもらうダイアド・データでもあるという、他に類のない特徴を有しています。

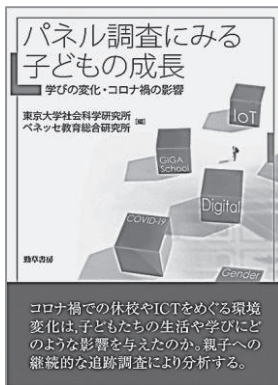
調査結果

2015年度から24年度までの調査結果をHPで公開



書籍 勁草書房より刊行

パネル調査にみる子どもの成長
学びの変化・コロナ禍の影響



ローデータ公開中

2015年度から21年度に取得した複数のデータを、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターで公開中。同センターに申請することで、研究や教育目的で利用できます。



公開中のデータ

- 子どもの生活と学びに関する親子調査
 - ・小1～3の保護者、小4～高3の子どもと保護者
 - ・日々の生活、学習、人間関係、価値観を調査
- 高校生活と進路に関する調査
 - ・高3の子ども（卒業時の3月に実施）
 - ・進路選択の振り返りと卒業後の進路を調査
- 語彙力調査・読解力調査
 - ・小3・6・中3・高3（語彙力）、中3・高3（読解力）
 - ・IRTにより一元化された尺度で調査

ベネッセ教育総合研究所 <https://benesse.jp/berd/>



有斐閣

出版案内

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-17

<https://www.yuhikaku.co.jp>

表示価格は税込

はじめての子ども論

子ども観の歴史社会学

元森絵里子 著

「子ども」でひとくく近代化の歴史地図。A5判 定価2420円

成人式を社会学する

元森絵里子・ハントンヒョン 編

日常の微妙な謎を真正面から考える。四六判 定価2640円

社会学概論

何をどのように考えてきたのか

武川正吾・佐藤健二・常松淳・武岡暢・米澤旦 著
社会学は何を明らかにするのか？ 有斐閣アルマ 四六判 定価2090円

いま、ともに考える社会学

現代社会学入門

山田真茂留・有田伸・中村英代 編

楽しく読み進めながら学べるよう工夫。充実の入門書。定価1980円

新・地域の社会学

森岡清志 編

身近な生活の場における社会活動をさまざまな角度から描き出す。有斐閣アルマ 四六判 定価2640円

社会をひもとく

都市・地域にみる社会問題の問い方

北川由紀彦・山本薫子・山口恵子・玉野和志 編
多様な社会をいかにして問うべきか。A5判 定価2970円

コミュニティの社会学

祐成保志・武田俊輔 編

「コミュニティ」のダイナミズムをとらえるために。A5判 定価3190円

モビリティーズの社会学

吉原直樹・飯笹佐代子・山岡健次郎 編

社会科学のパラダイムシフトに挑む。A5判 定価3850円

挑戦するフェミニズム

上野千鶴子・江原由美子 編

フェミニズムは今、何を議論すべきか。A5判 定価3190円

外国人雇用の産業社会学

外国人雇用がすれ違うメカニズムとは？ A5判 定価4950円

園田薫 著

外国人雇用がすれ違うメカニズムとは？ A5判 定価4950円

